

第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための
市民アンケート調査結果報告書

令和2年2月

第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための市民アンケート調査結果報告書

目次

1. 調査の概要

1-1	調査の目的	1
1-2	調査項目	1
1-3	調査対象者	1
1-4	調査期間	1
1-5	調査方法	1
1-6	回収結果	1
1-7	回答者の基本属性	2
	(1) 性別	2
	(2) 年齢	2
	(3) 居住地	3
	(4) 職業	3
	(5) 居住年数	4

2. 調査結果

【定住意向について】

2-1	定住意向	5
2-2	住み続けたいと思う理由	8
2-3	住み続けたいとは思わない理由	9
2-4	住み続けるために必要なこと	10

【まちづくりの評価について】

2-5	施策分野別満足度	11
2-6	施策分野別5年前との比較	12
2-7	施策分野別重要度	13
2-8	施策分野別の重要度と満足度	14

【これからのまちづくりについて】

2-9	福祉の充実のために力を入れるべきこと	15
2-10	子育て環境の充実のために力を入れるべきこと	17
2-11	教育の充実のために力を入れるべきこと	19
2-12	防災に対する取組として力を入れるべきこと	21

2-13	都市基盤整備の取組みとして力を入れるべきこと	23
2-14	差別の実態や認識について	25

【まちづくりへの参加について】

2-15	まちづくり活動への参加意向	27
2-16	地域活動やボランティア活動の活性化に必要なこと	28
2-17	行政サービス情報の入手方法	31
2-18	広報かいつかで充実すべき内容	32

【貝塚市の将来像】

2-19	貝塚市の将来像	34
------	---------	----

1. 調査の概要

1-1 調査の目的

平成27年に策定した「貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が令和2年9月に目標年次を迎えることから、第2期総合戦略の策定準備として、市民の身近な環境や市の将来像などについての意見を把握し、これからの政策形成の方向を定めるための基礎資料として活用することを目的としています。

1-2 調査項目

- ・ 定住意向について
- ・ まちづくりの評価について
- ・ これからのまちづくりについて
- ・ まちづくりへの参加について
- ・ 貝塚市の将来像について
- ・ 基本的属性

1-3 調査対象者

市内在住の15歳以上の市民4,000人（住民基本台帳から無作為抽出）

1-4 調査期間

令和元年9月～10月

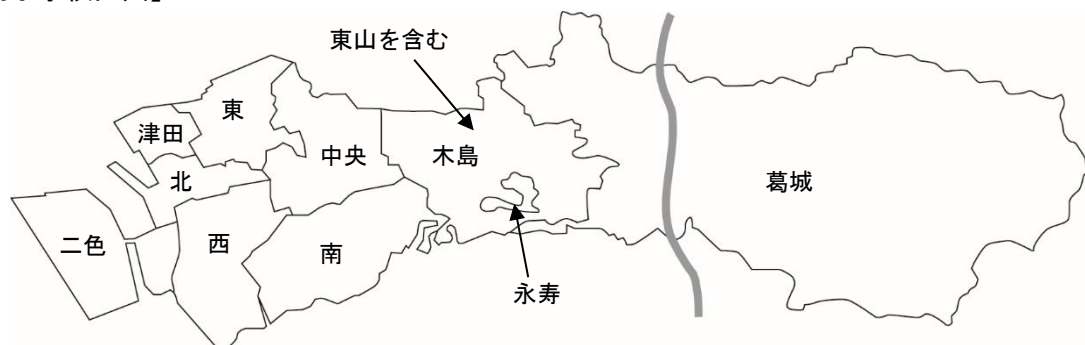
1-5 調査方法

郵送配布・郵送回収調査法

1-6 回収結果

- | | |
|----------|--------------|
| a. 発送数 | 4,000件 |
| b. 未到達数 | 17件（宛先不明で返送） |
| c. 到達数 | 3,983件 |
| d. 有効回収数 | 1,595件 |
| e. 回収率 | 40.0%（d/c） |

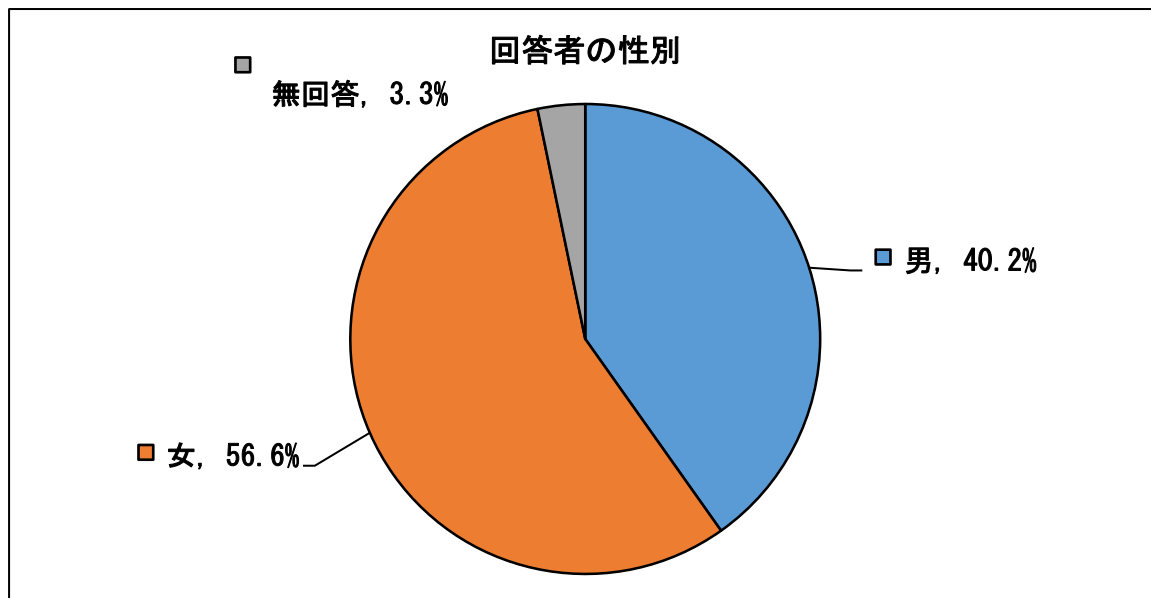
【市内小学校区図】



1-7 回答者の基本属性

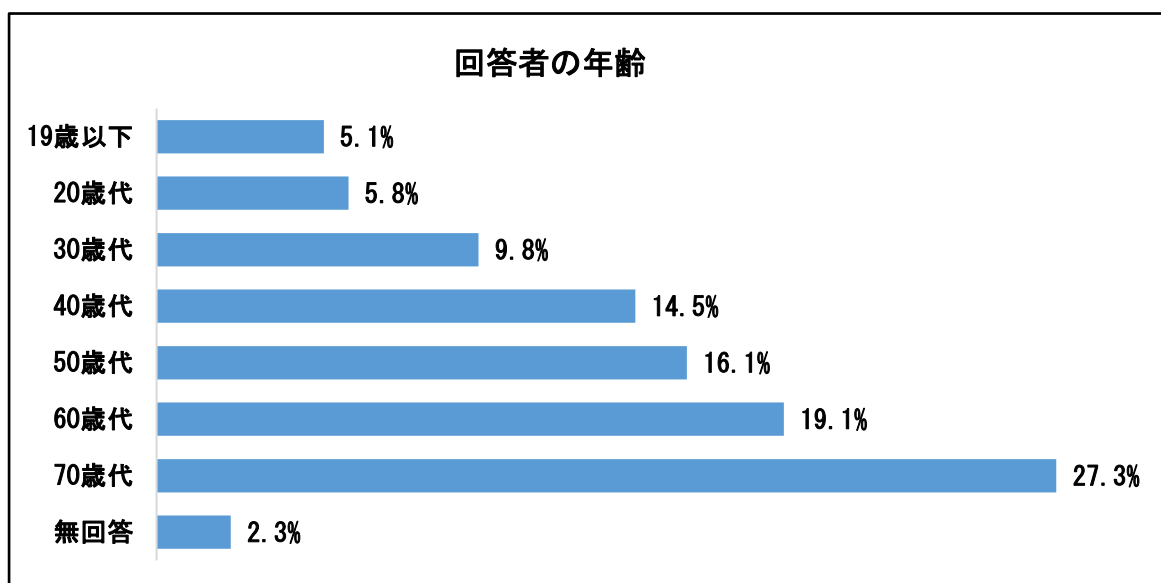
(1) 性別

回答者の性別は、男性が40.2%、女性が56.6%、無回答が3.3%となっています。



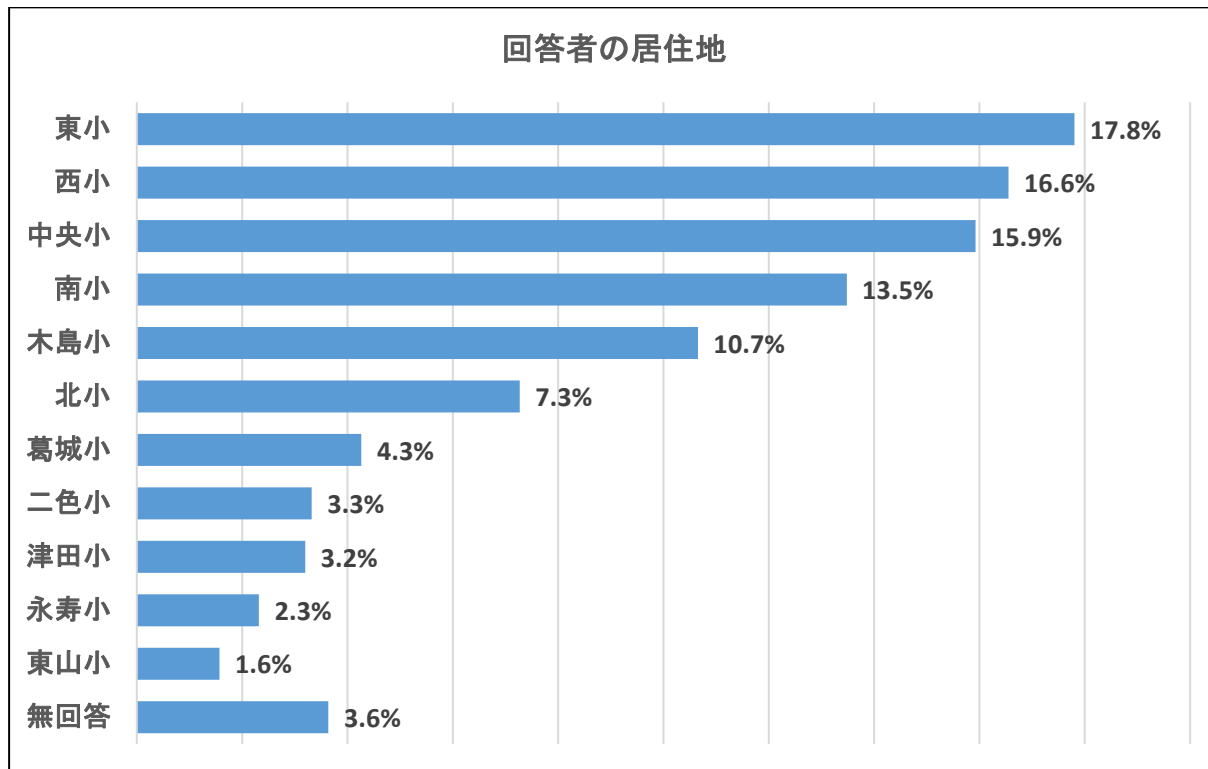
(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が27.3%と最も多く、次いで、「60歳代」が19.1%、「50歳代」が16.1%、40歳代が14.5%となっています。



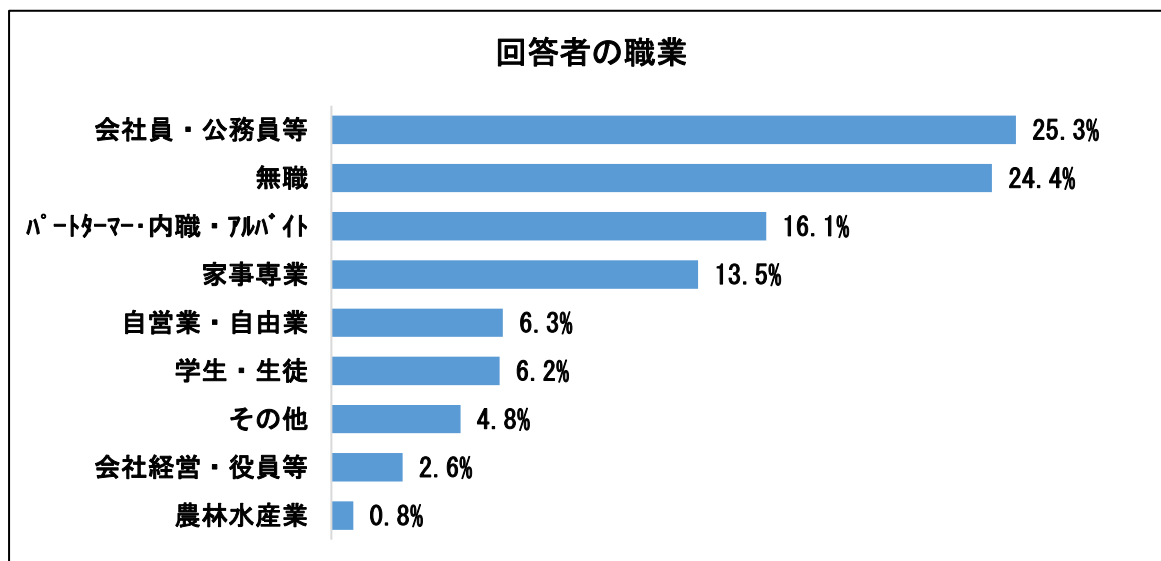
(3) 居住地

回答者の居住地は、「東小」「西小」「中央小」が15～18%、「南小」「木島小」が10～14%、「北小」7.3%、「津田小」「葛城小」「二色小」が3～5%となっています。



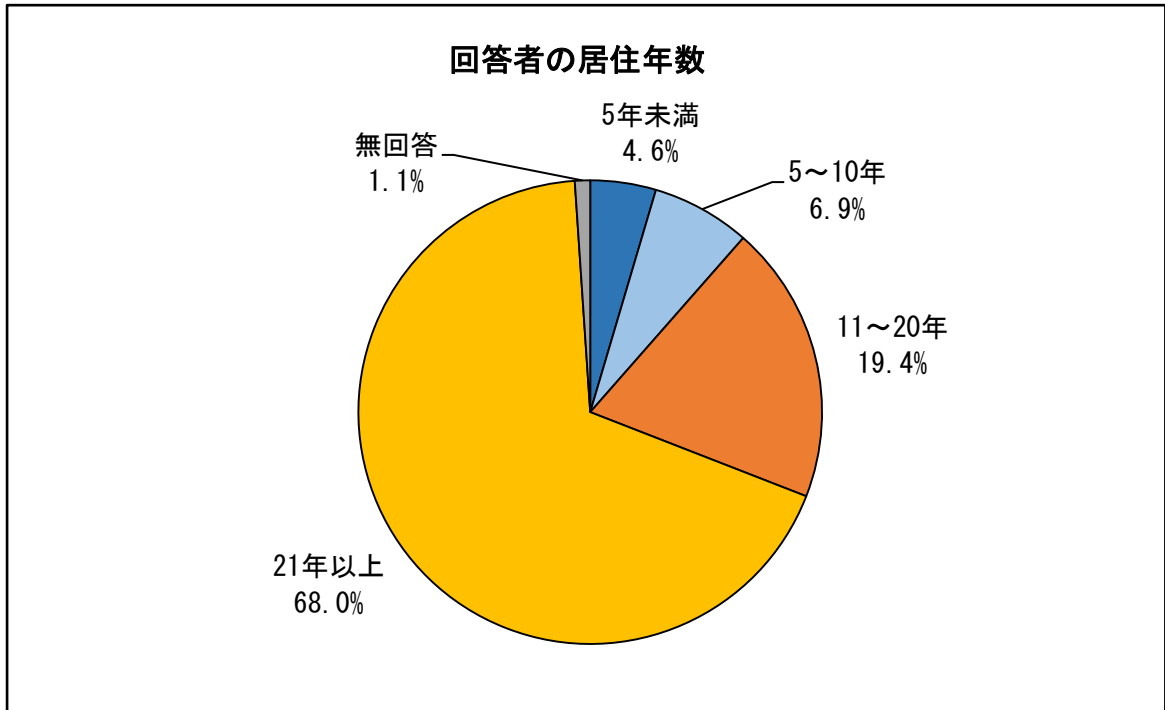
(4) 職業

回答者の職業は、「会社員・公務員等」が25.3%と最も多く、次いで、「無職」が24.4%、「パートタイマー・内職・アルバイト」が16.1%、「家事専業」が13.5%となっています。



(5) 居住年数

回答者の居住年数は「21年以上」(68.0%)が最も多く、次いで、「11～20年」(19.4%)、「5～10年」(6.9%)、「5年未満」(4.6%)となっています。



2. 調査結果

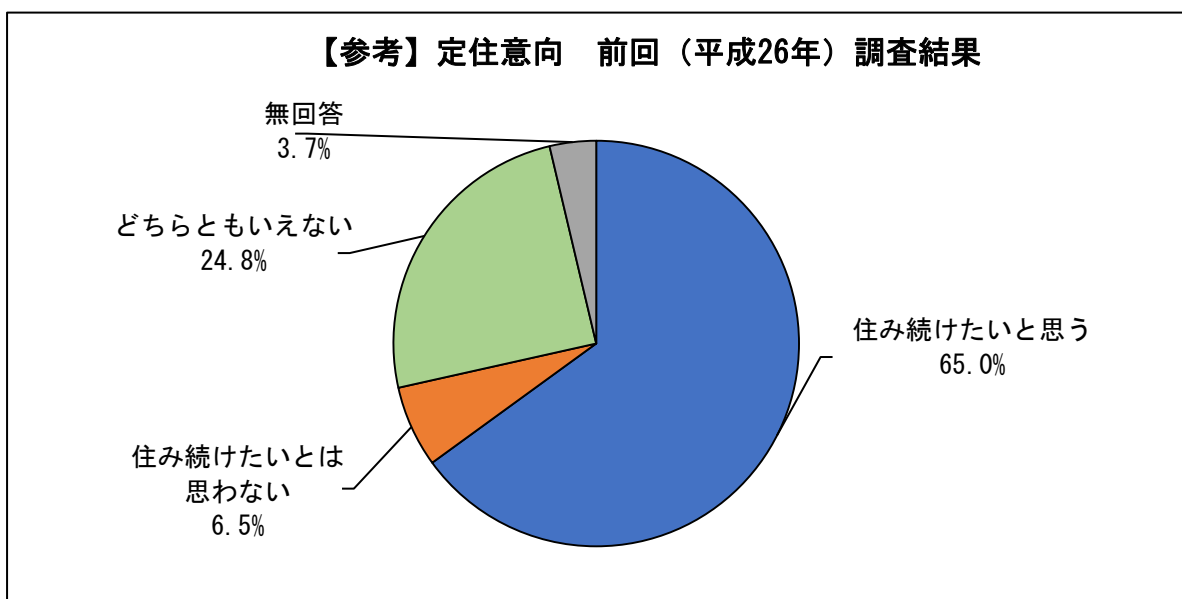
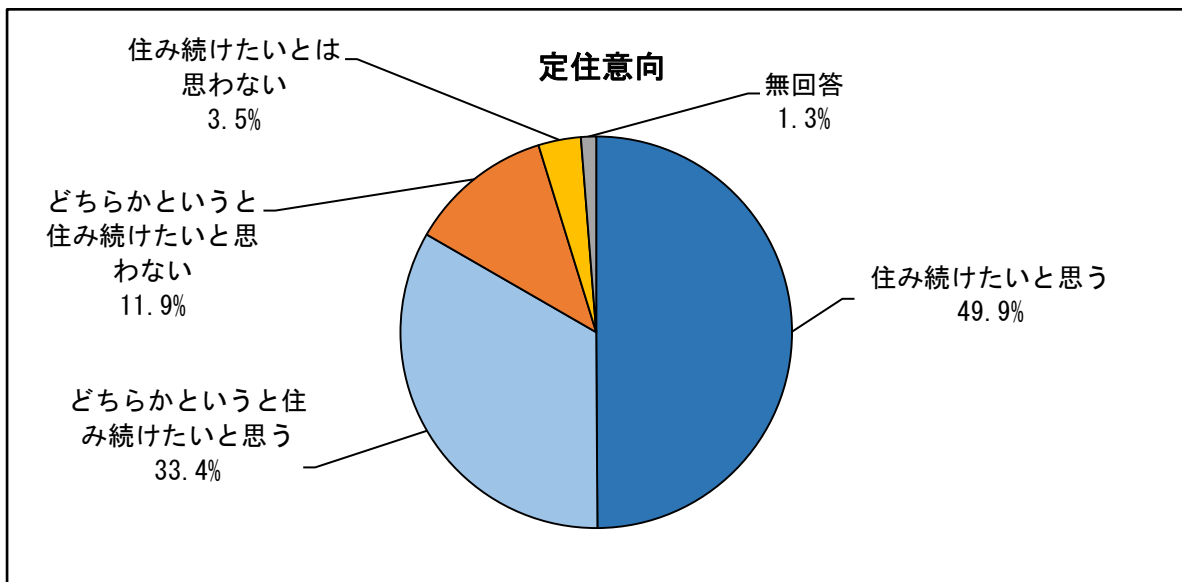
【 定住意向について 】

2-1 定住意向

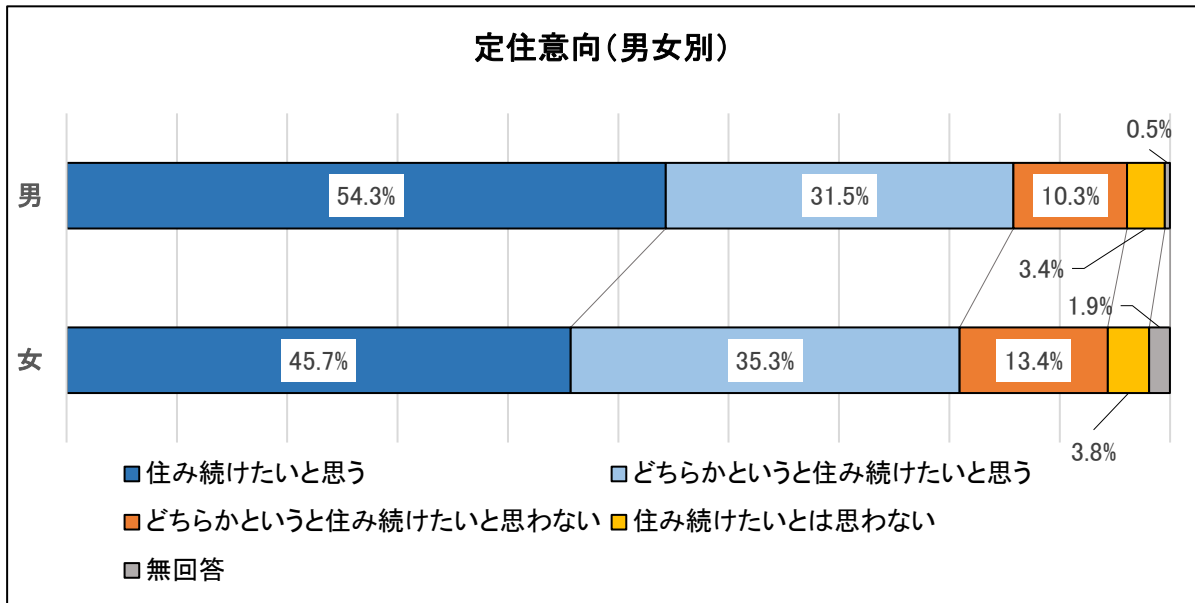
将来にわたり貝塚市に住み続けたいと思うかという設問に対して、「住み続けたいと思う」が49.9%、「どちらかというに住み続けたい」が33.4%となり、合計83.3%となっています。

一方、「どちらかというに住み続けたいと思わない」が11.9%、「住み続けたいと思わない」が3.5%となり、合計15.4%となっています。

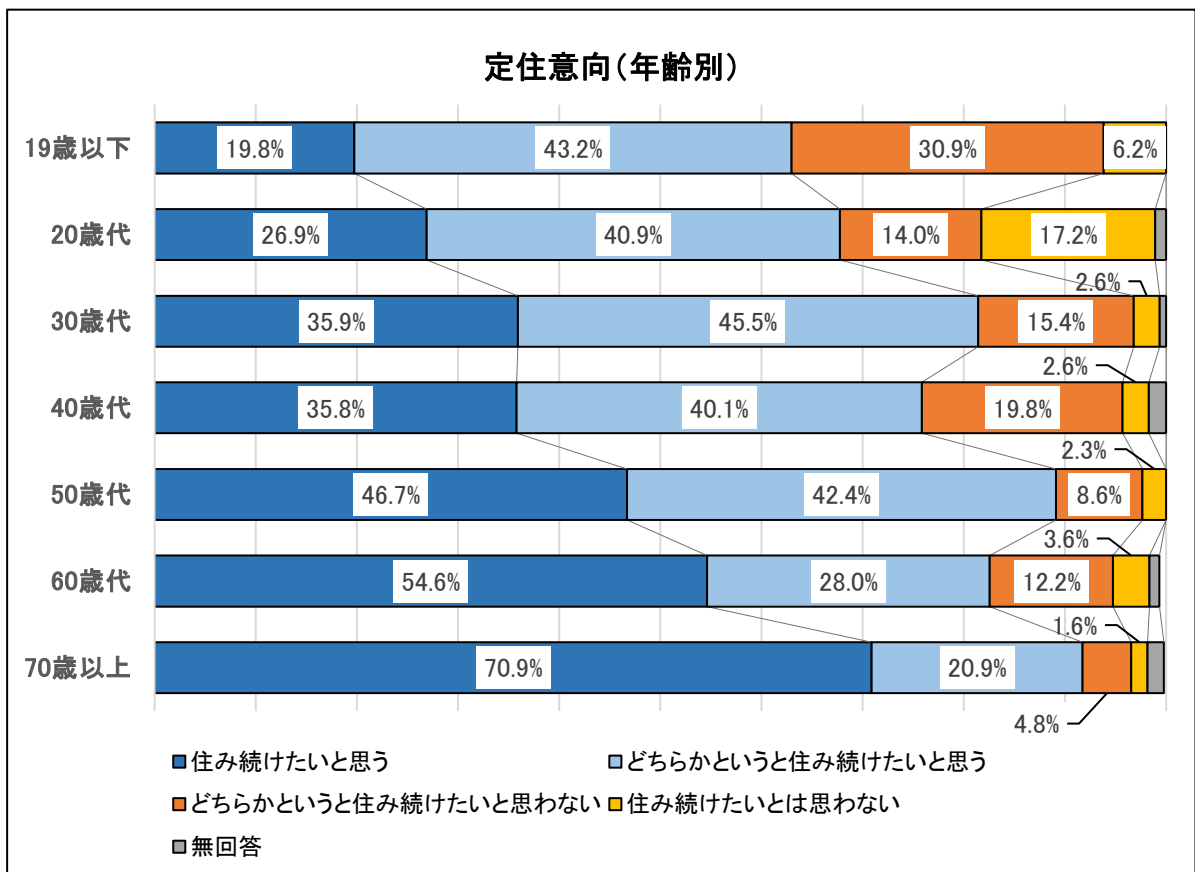
5年前の平成26年に実施した前回調査と比較すると、「どちらともいえない」の選択肢をなくしたことで定住意向がより明確になり、8割以上が今後も貝塚市での定住を希望されているという結果になりました。



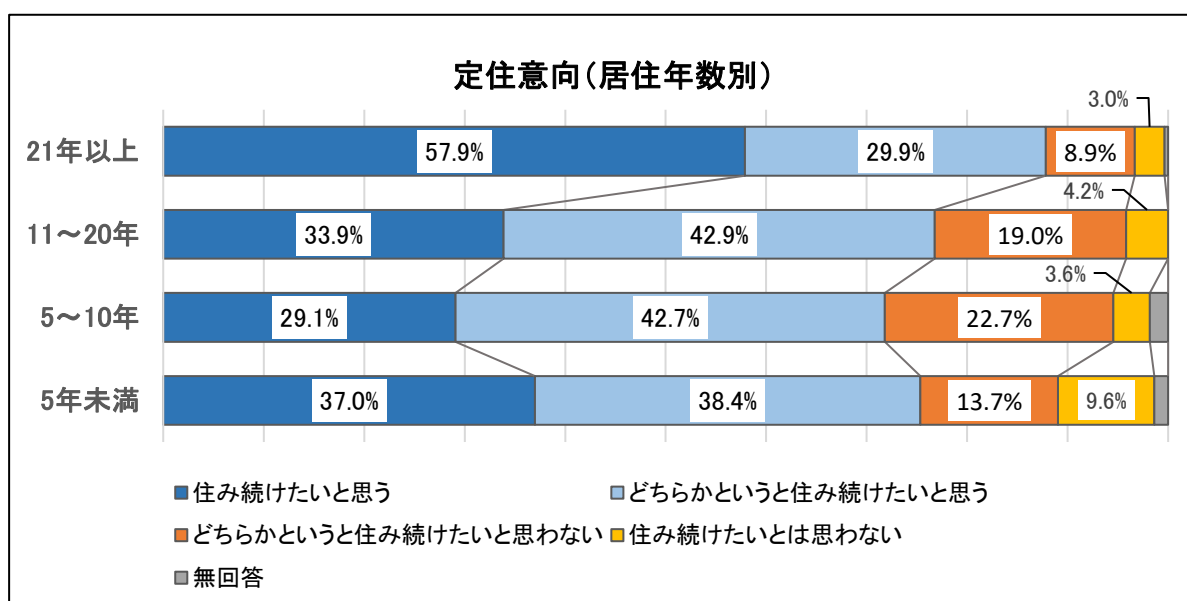
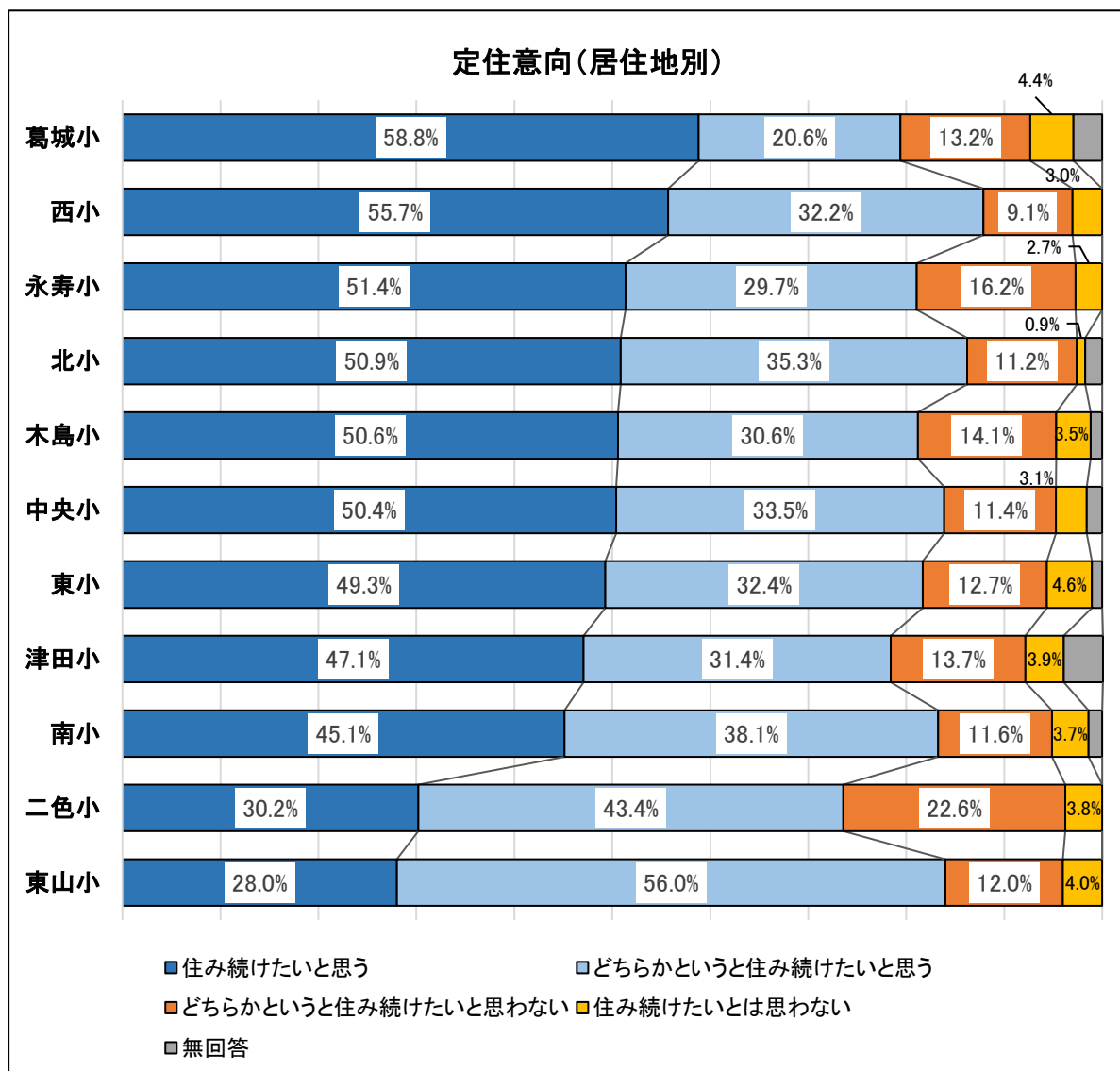
男女別では、「住み続けたいと思う」、「どちらかというと思住み続けたいと思う」の合計が、男性85.8%、女性81.0%となり、女性に比べ男性の方が4.8ポイント高くなっています。



年齢別では、若年になるほど「住み続けたいと思う」「どちらかというと思住み続けたいと思う」の割合が少なく、20歳代では計67.8%、19歳以下では計63.0%となり、全体の計83.3%と比較すると20%程度低い結果となりました。

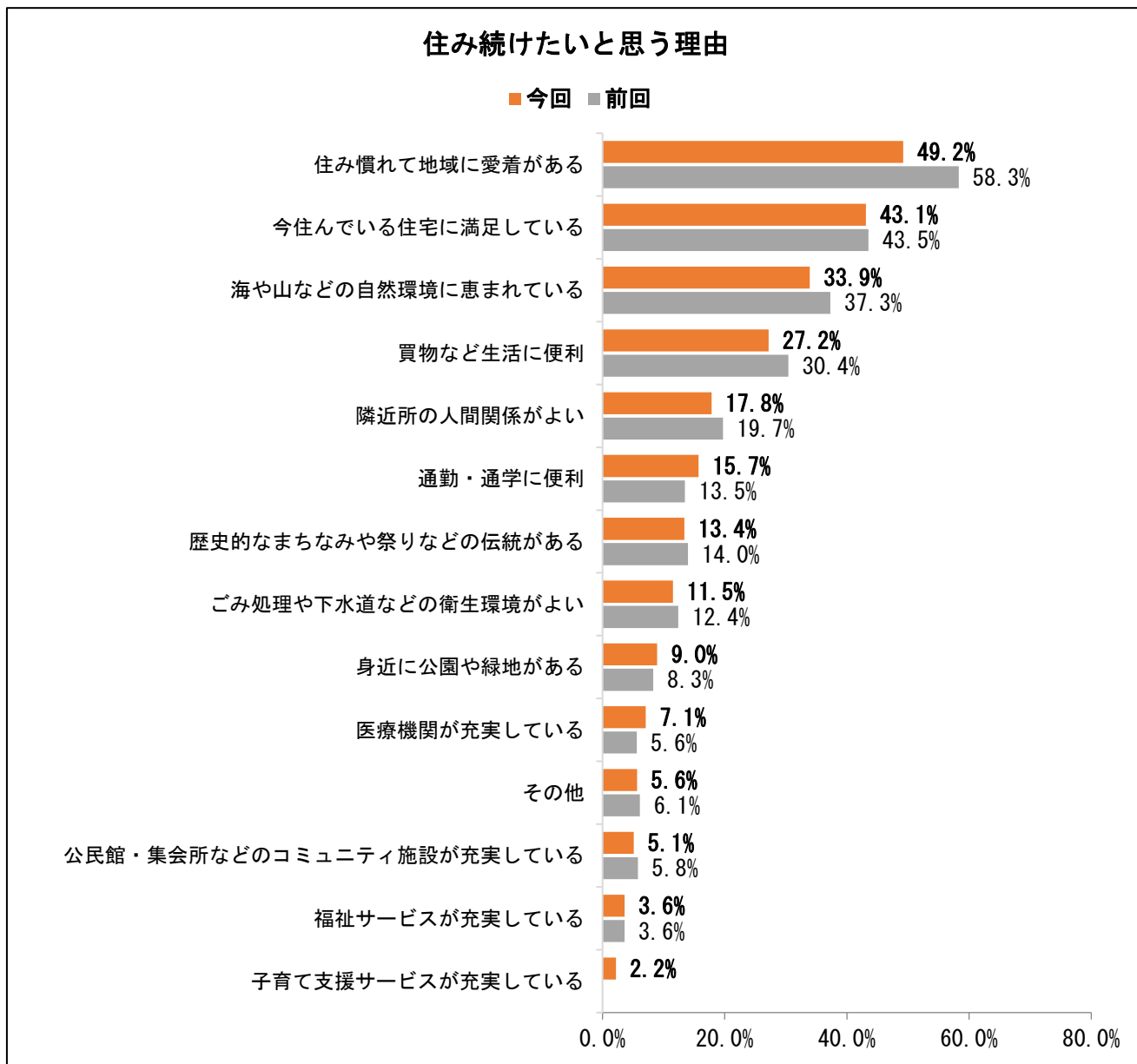


地域別では、「西小」、「北小」、「東山小」で高く、「二色小」で低くなっており、居住年数別では、21年以上在住の方が高くなっています。



2-2 住み続けたいと思う理由（3項目まで選択）

住み続けたいと思う理由としては、前回と同様に「住み慣れて地域に愛着がある」が49.2%と最も多く、次いで、「今住んでいる住宅に満足している」（43.1%）「海や山などの自然環境に恵まれている」（33.9%）、となっています。



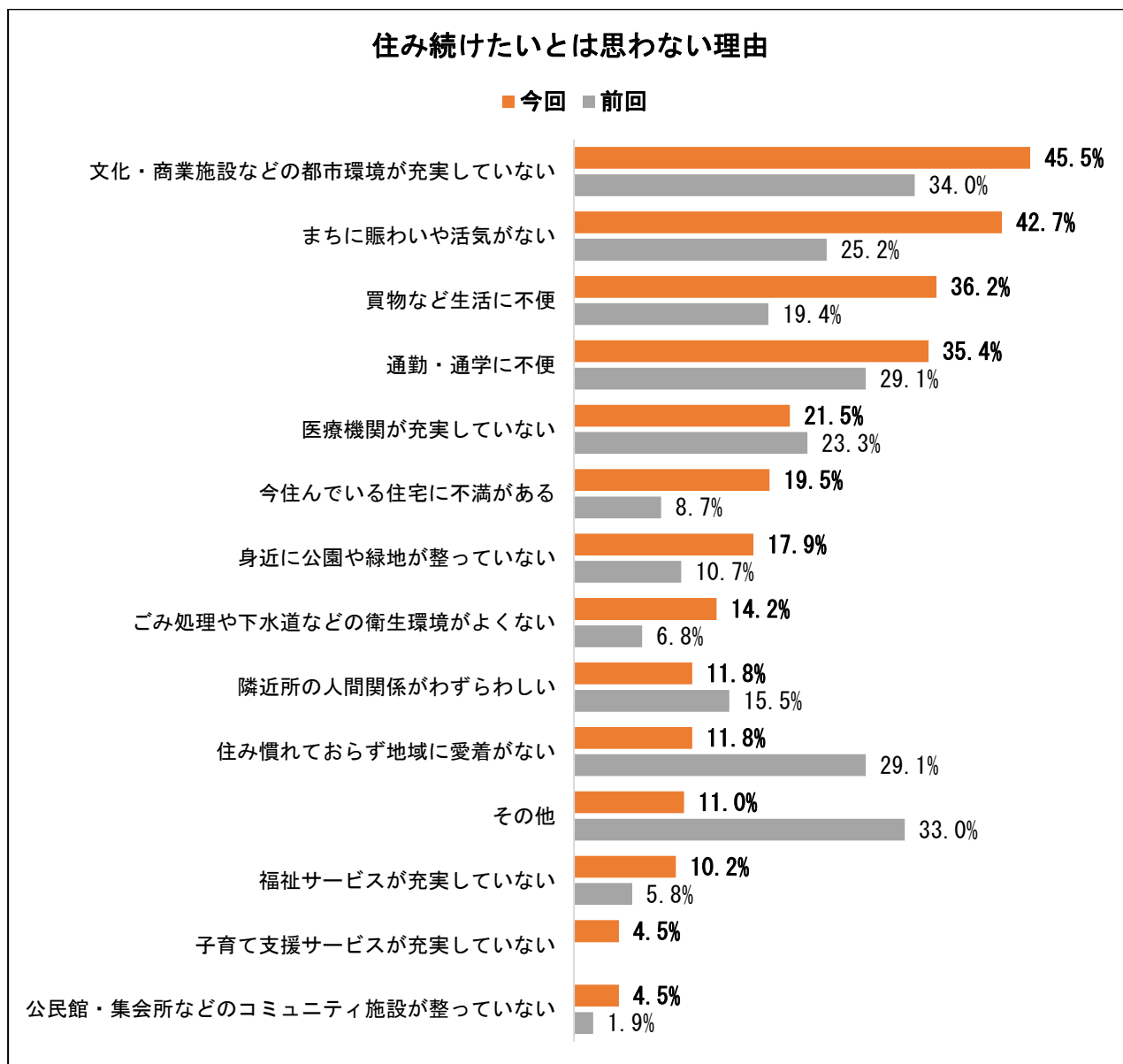
※「子育て支援サービスが充実している」の項目は、前回のアンケートで選択肢になかったため、今回の結果のみとなっています。

■その他の具体的な内容（主なもの）

- 身内が近くにいる
- コミュニティの場が多いと思う
- 交通機関がよい（電車、空港、高速）
- 人口密度が適度である
- 台風など天災が少ない

2-3 住み続けたいとは思わない理由（3項目まで選択）

住み続けたいとは思わない理由としては、「文化・商業施設などの都市環境が充実していない」が45.5%と最も多く、次いで、「まちに賑わいや活気がない」（42.7%）、「買物など生活に不便」（36.2%）が多く、前回の結果と比較しても高い割合となっています。



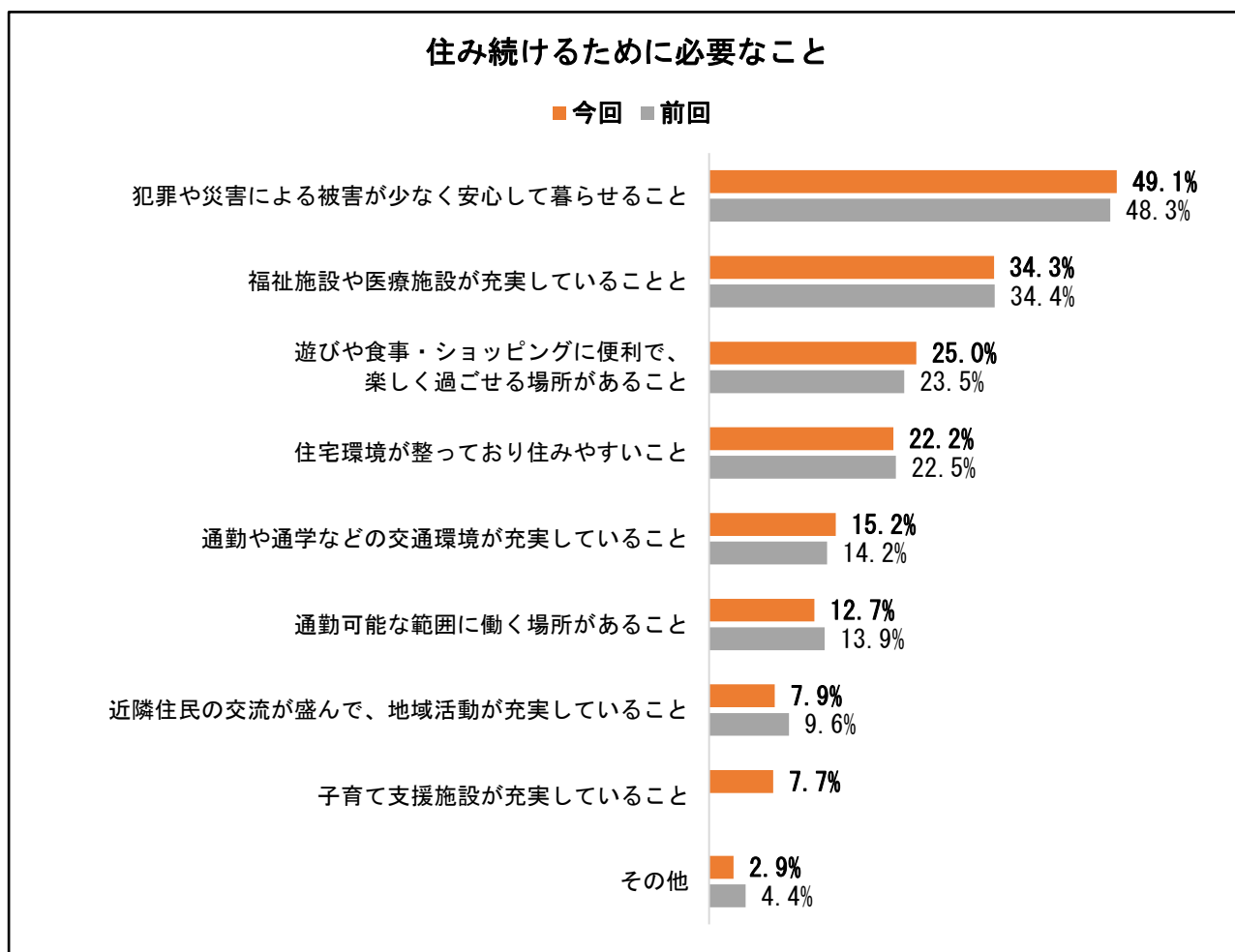
※「子育て支援サービスが充実していない」の項目は、前回のアンケートで選択肢になかったため、今回の結果のみとなっています。

■ その他の具体的な内容（主なもの）

- 実家の近くに行きたい
- 観光するところが乏しい
- 津波被害の不安
- 子供の人数が減ってこの先不安
- 教育レベルが相対的に低い
- 将来したい仕事がない

2-4 住み続けるために必要なこと（2項目まで選択）

住み続けるために必要なこととしては、前回同様「犯罪や災害による被害が少なく安心して暮らせること」が49.1%と最も多く、次いで、「福祉や医療施設が充実していること」（34.3%）、「遊びや食事・ショッピングに便利で、楽しく過ごせる場所があること」（25.0%）、「住環境が整っており住みやすいこと」（22.2%）となっています。



※「子育て支援施設が充実していること」の項目は、前回のアンケートで選択肢になかったため、今回の結果のみとなっています。

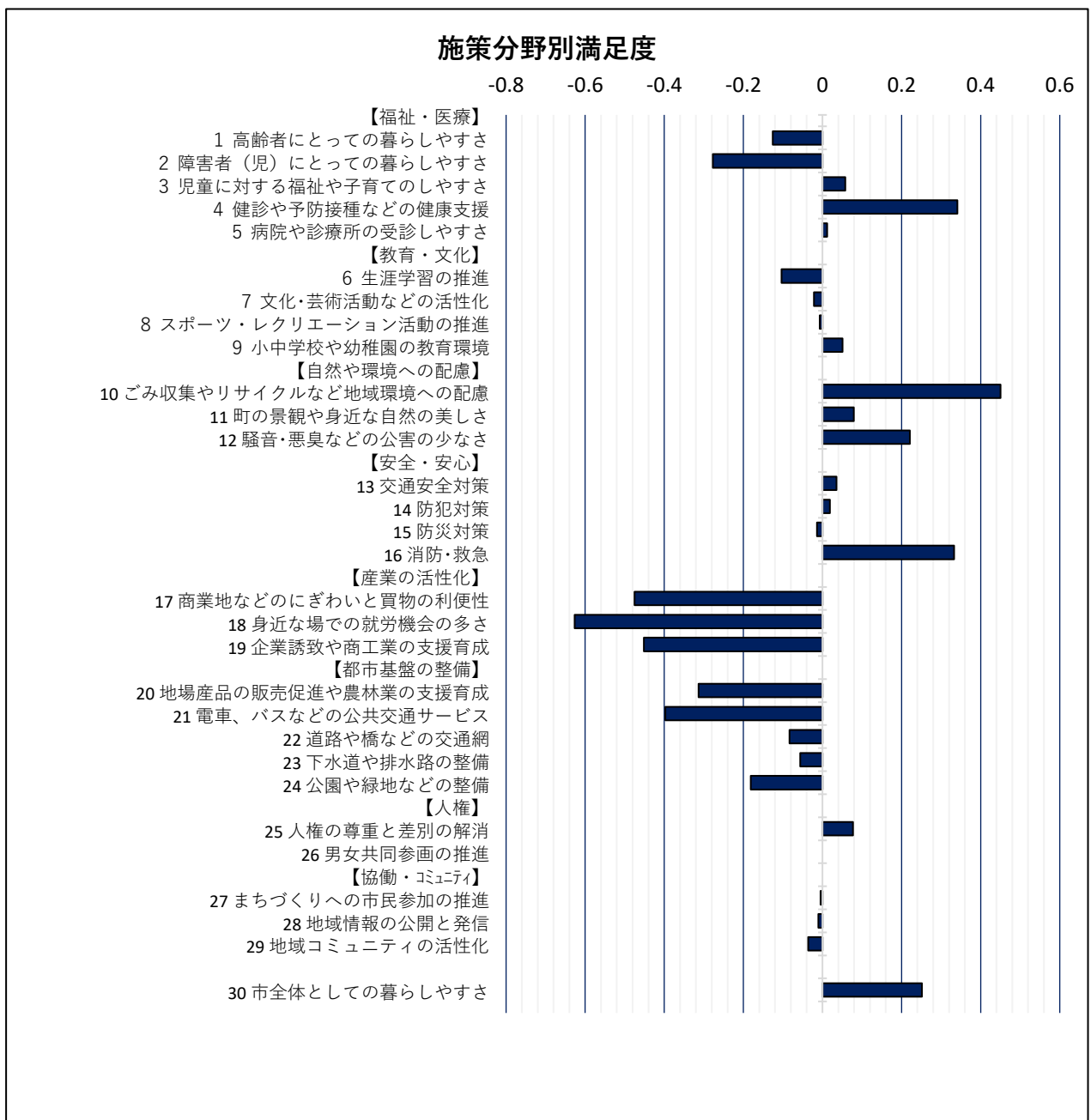
【まちづくりの評価について】

2-5 施策分野別満足度

施策分野別に、現在の生活の中でどの程度満足していますかという設問に対して、「満足」2点、「やや満足」1点、「普通」0点、「やや不満」-1点、「不満」-2点として点数化し、平均点を算出すると、29項目のうちプラス（満足）の評価は12項目、マイナス（不満）の評価は17項目となっており、市全体としての暮らしやすさはプラスの評価となっています。

プラスの評価が最も高いのは「ごみ収集やリサイクル等地球環境への配慮」であり、次いで、「健診や予防接種などの健康支援」「消防・救急」となっています。

マイナスの評価は、「産業の活性化」に関する項目が最も高く、次いで、「都市基盤の整備」となっています。



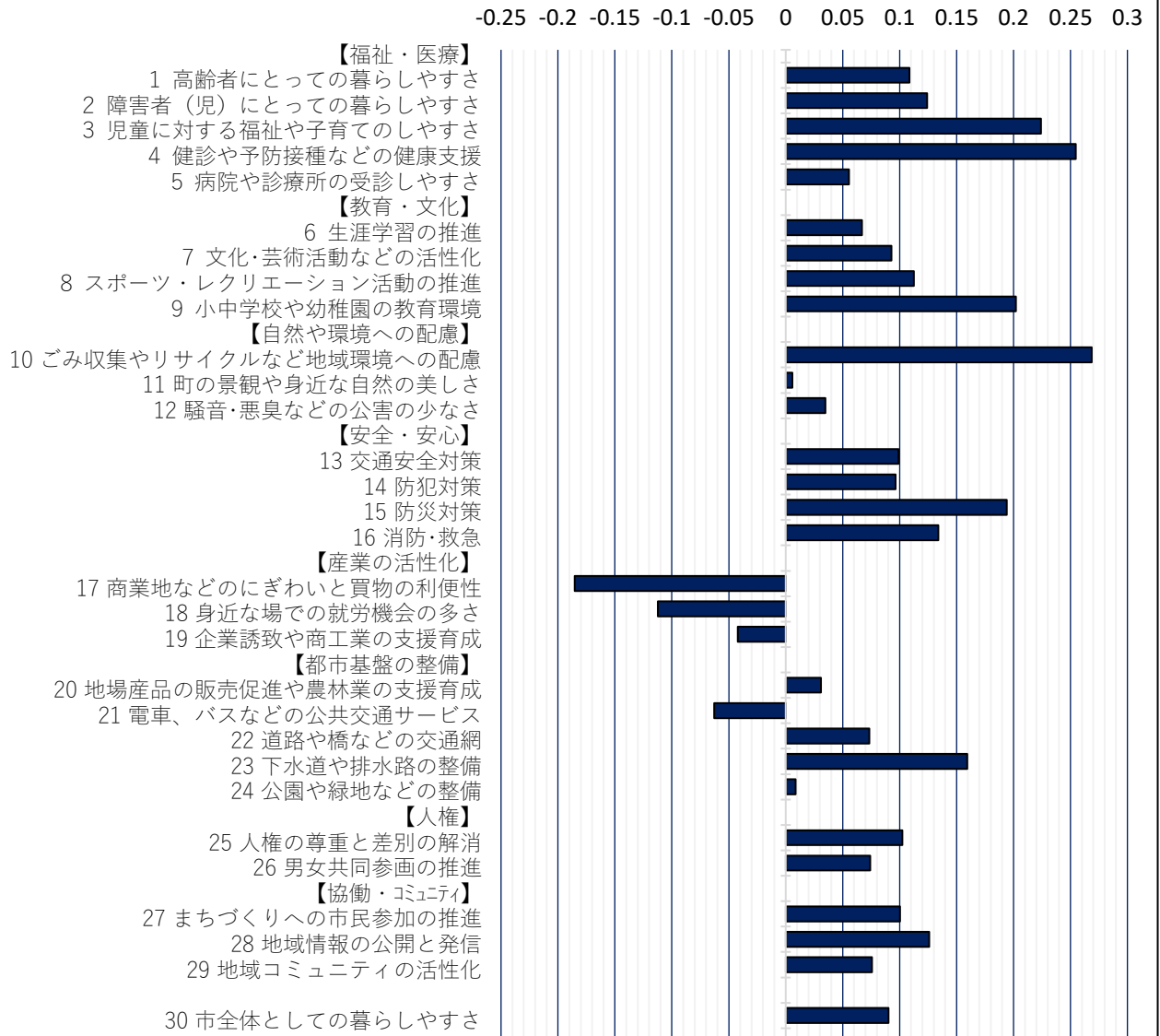
2-6 施策分野別5年前との比較

施策分野別に、5年前と比べて良くなりましたかという設問に対して、「良くなった」1点、「変化なし」0点、「悪くなった」-1点として点数化し、平均点を算出すると、29項目のうちプラス（良くなった）の評価は25項目、マイナス（悪くなった）の評価は4項目となっており、市全体としての暮らしやすさは5年前と比べて、プラスの評価となっています。

プラスの評価が最も高いのは「ごみ収集やリサイクルなど地球環境への配慮」であり、次いで、「健診や予防接種などの健康支援」「児童に対する福祉や子育てのしやすさ」「小中学校や幼稚園の教育環境」「防災対策」となっています。

マイナスの評価は、「商業地などのにぎわいと買物の利便性」「身近な場での就労機会の多さ」「企業誘致や商工業の支援育成」「電車・バスなどの公共交通サービス」となっています。

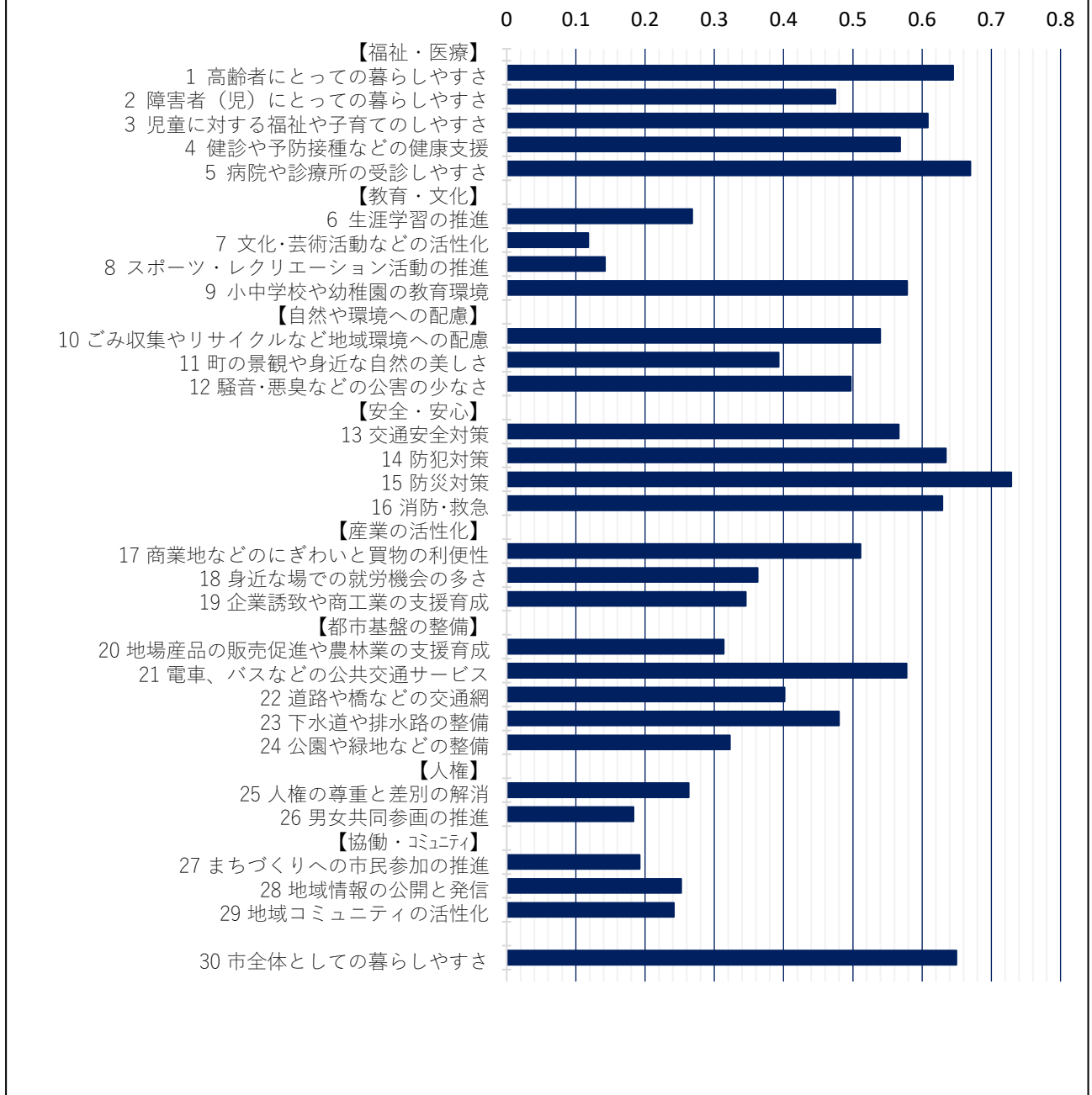
施策分野別5年前との比較



2-7 施策分野別重要度

施策分野別に、将来に向け重要だと思いませんかという設問に対して、「重要度・高」1点、「重要度・中」0点、「重要度・低」-1点として点数化し、平均点を算出すると、29項目すべての項目がプラス（重要度・中～高）となっており、特に、「安全・安心」「福祉・医療」「自然や環境への配慮」「都市基盤の整備」の分野の重要度が高くなっています。

施策分野別重要度

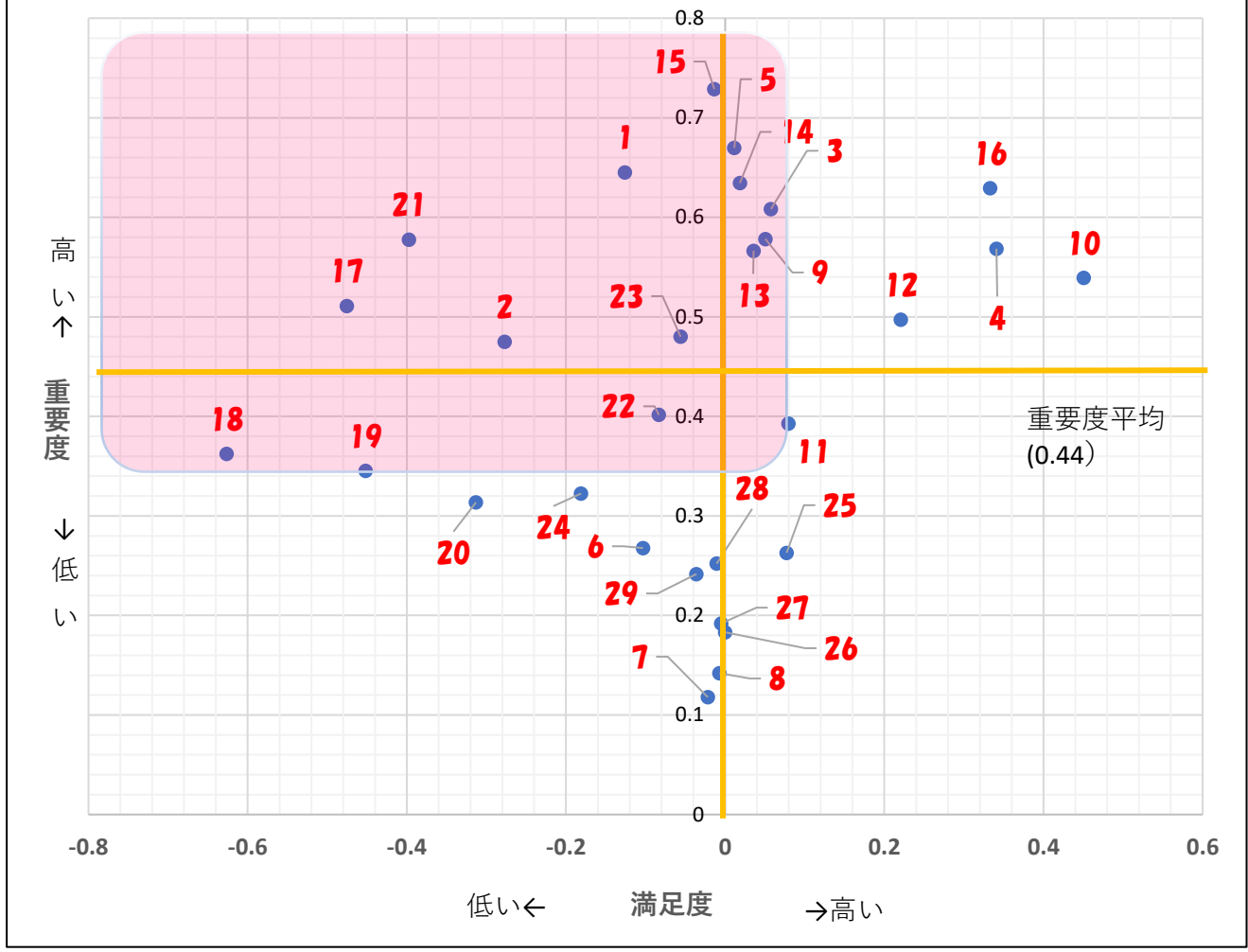


2-8 施策分野別の重要度と満足度

下のグラフは、各施策の重要度を縦軸に、満足度を横軸に取り、施策の優先度を視覚的に把握する「ポートフォリオ分析」の結果です。

重要度が高く、満足度が低い桃色網掛け部分にある施策が、優先的に取り組むべき施策であることがわかります。

施策分野別の重要度と満足度



- | | | |
|-------------------------|-----------------------|---------------------|
| 1 高齢者にとっての暮らしやすさ | 11 町の景観や身近な自然の美しさ | 21 電車・バスなどの公共交通サービス |
| 2 障害者(児)にとっての暮らしやすさ | 12 騒音・振動などの公害の少なさ | 22 道路や橋などの交通網 |
| 3 児童に対する福祉や子育てのしやすさ | 13 交通安全対策 | 23 下水道や排水路の整備 |
| 4 健診や予防接種などの健康支援 | 14 防犯対策 | 24 公園や緑地などの整備 |
| 5 病院や診療所の受診のしやすさ | 15 防災対策 | 25 人権の尊重と差別の解消 |
| 6 生涯学習の推進 | 16 消防・救急 | 26 男女共同参画の推進 |
| 7 文化・芸術活動などの活性化 | 17 商業地などのにぎわいと買物の利便性 | 27 まちづくりへの市民参加の推進 |
| 8 スポーツ・レクリエーション活動の推進 | 18 身近な場での就労機会の多さ | 28 地域情報の公開と発信 |
| 9 小中学校や幼稚園の教育環境 | 19 企業誘致や商工業の支援育成 | 29 地域コミュニティの活性化 |
| 10 ごみ収集やリサイクルなど地球環境への配慮 | 20 地場産品の販売促進や農林業の支援育成 | |
- 【これからのまちづくりについて】

2-9 福祉の充実のために力を入れるべきこと（2項目まで選択）

福祉を充実させるためにはどのようなことに力を入れるべきかという設問に対して、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備促進（以下、「入所施設整備」）」が39.1%と最も多く、次

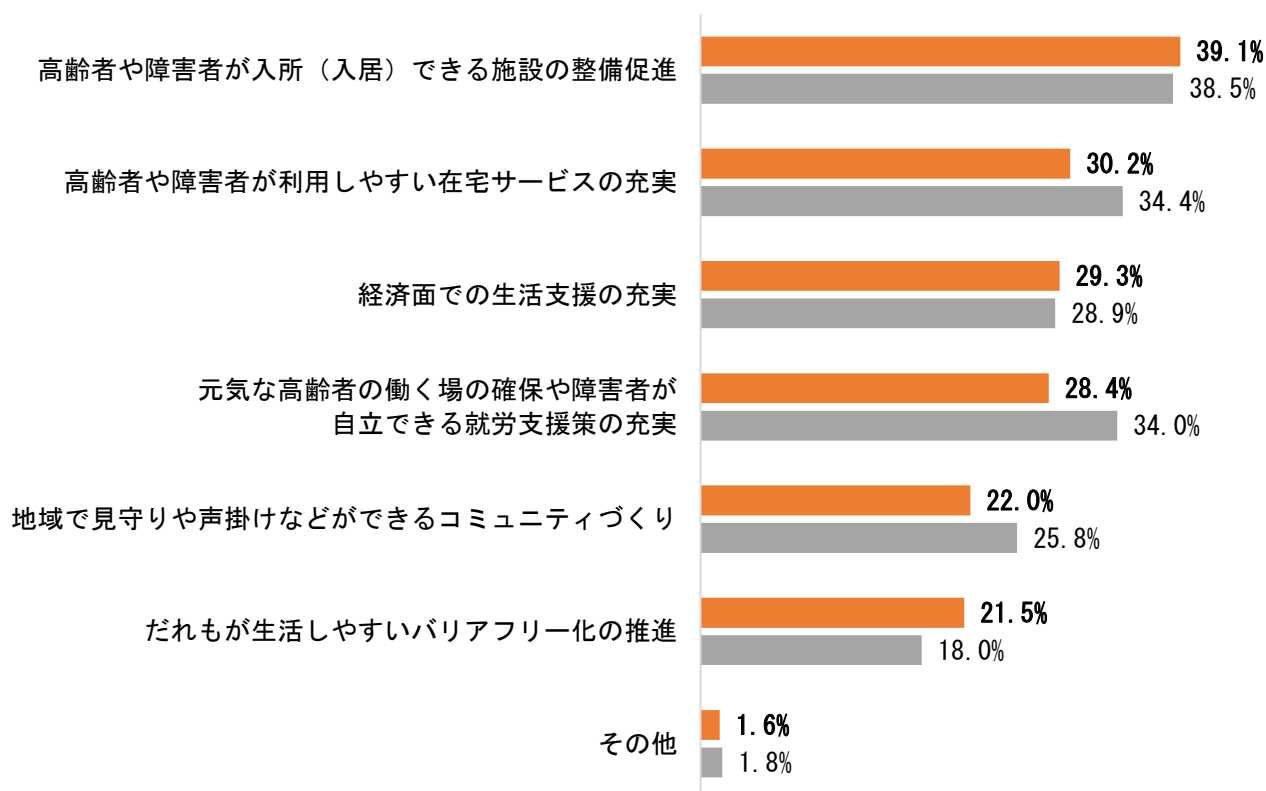
いで、「高齢者や障害者が利用しやすい在宅サービスの充実（以下、在宅サービス）」（30.2%）、
「経済面での生活支援の充実（以下、「経済的支援）」（29.3%）、「元気な高齢者の働く場の確保
や障害者が自立できる就労支援策の充実（以下、「就労支援）」（28.4%）、となっています。

男女別に最も選択肢の多い項目をみると、男性（42.3%）、女性（37.0%）ともに「入所施設整備」
となっています。

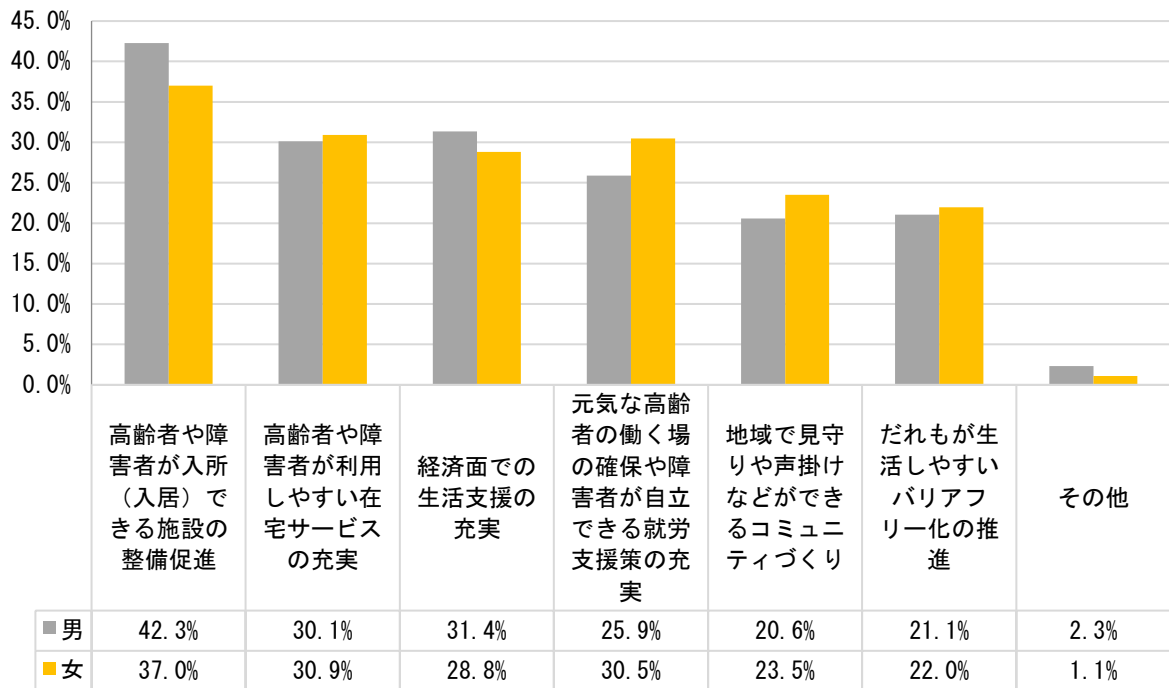
年齢別に最も選択肢の多い項目をみると、19歳以下が「だれもが生活しやすいバリアフリー化
の推進」42.0%）、20歳代が「経済的支援」、30歳代、40歳代が「就労支援」（35.9%、40.5%）、50
歳代、60歳代、70歳以上は「入所施設整備」（39.7%、46.7%、46.1%）となっています。

福祉の充実のために力を入れるべきこと

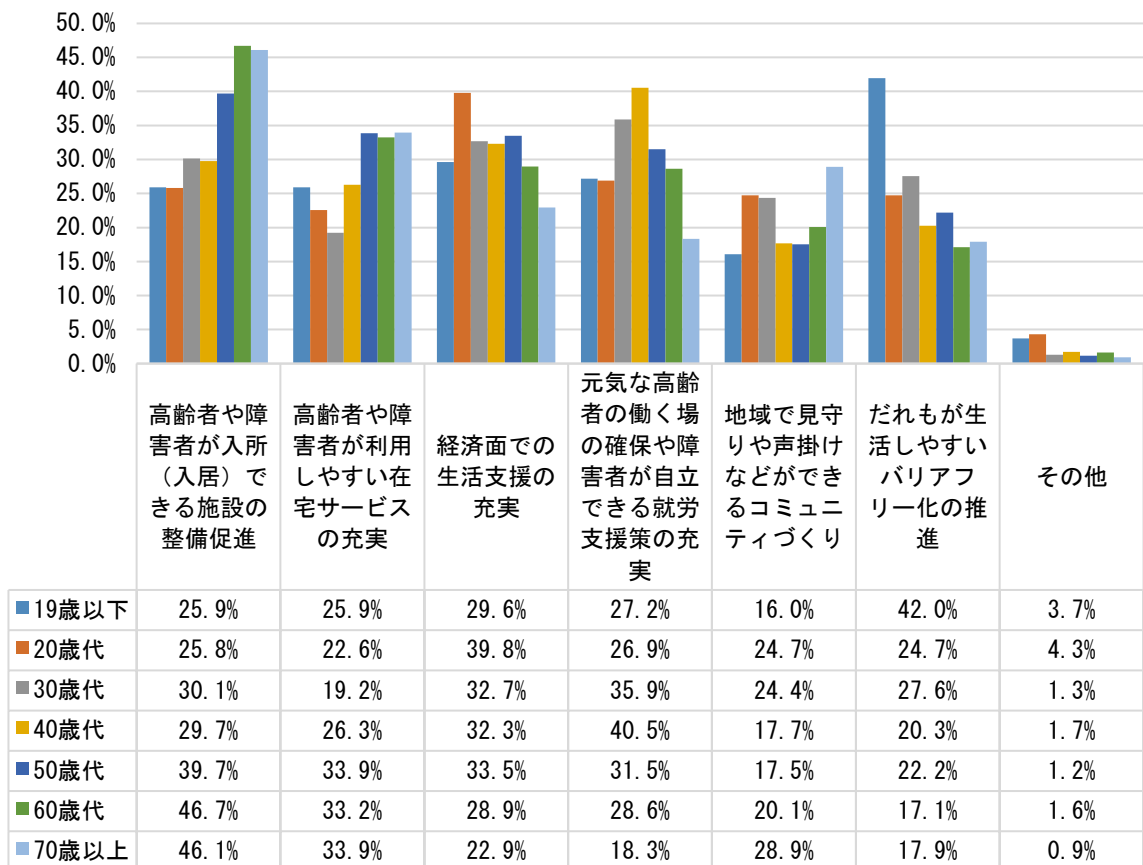
■ 今回 ■ 前回



福祉の充実のために力を入れるべきこと（男女別）



福祉の充実のために力を入れるべきこと（年齢別）

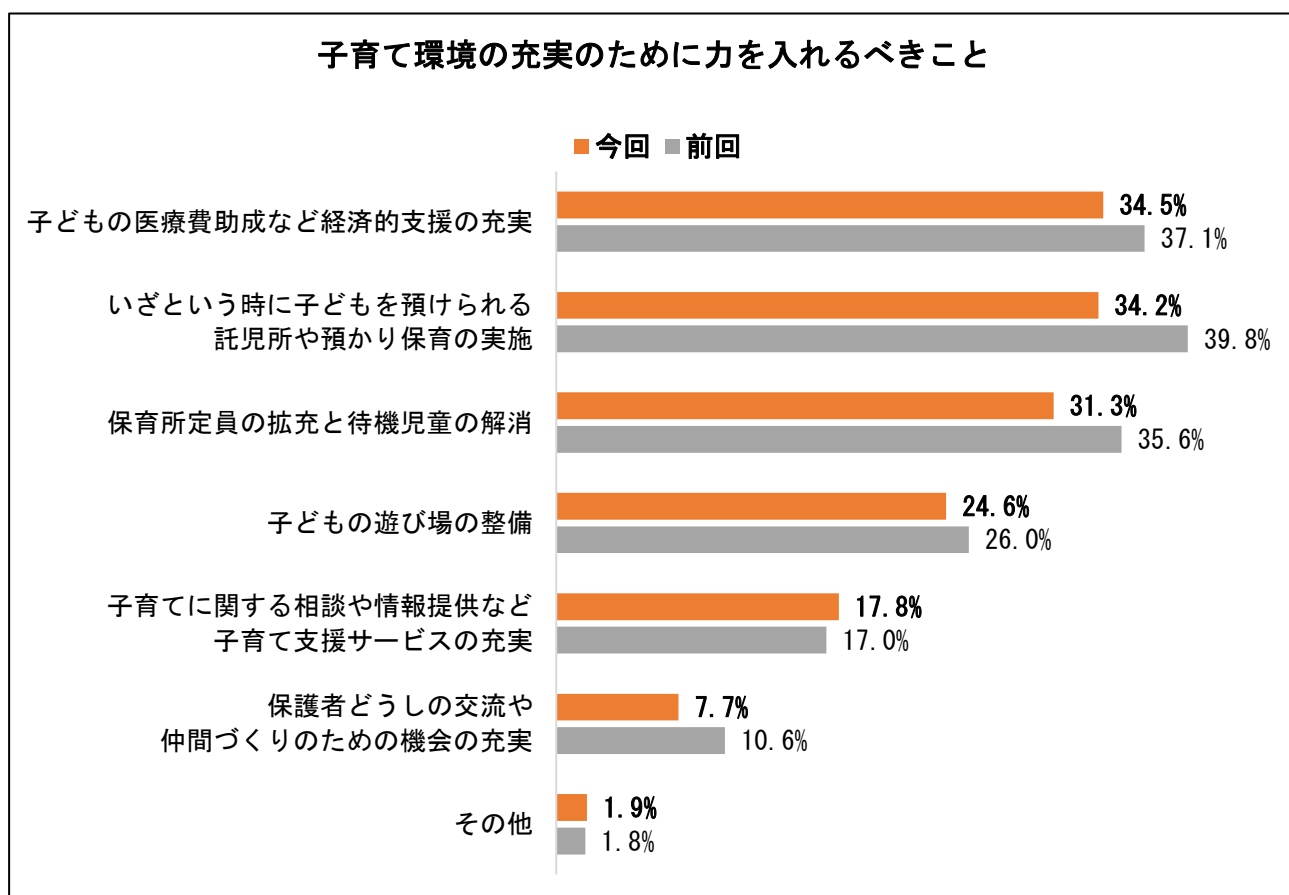


2-10 子育て環境の充実のために力を入れるべきこと（2項目まで選択）

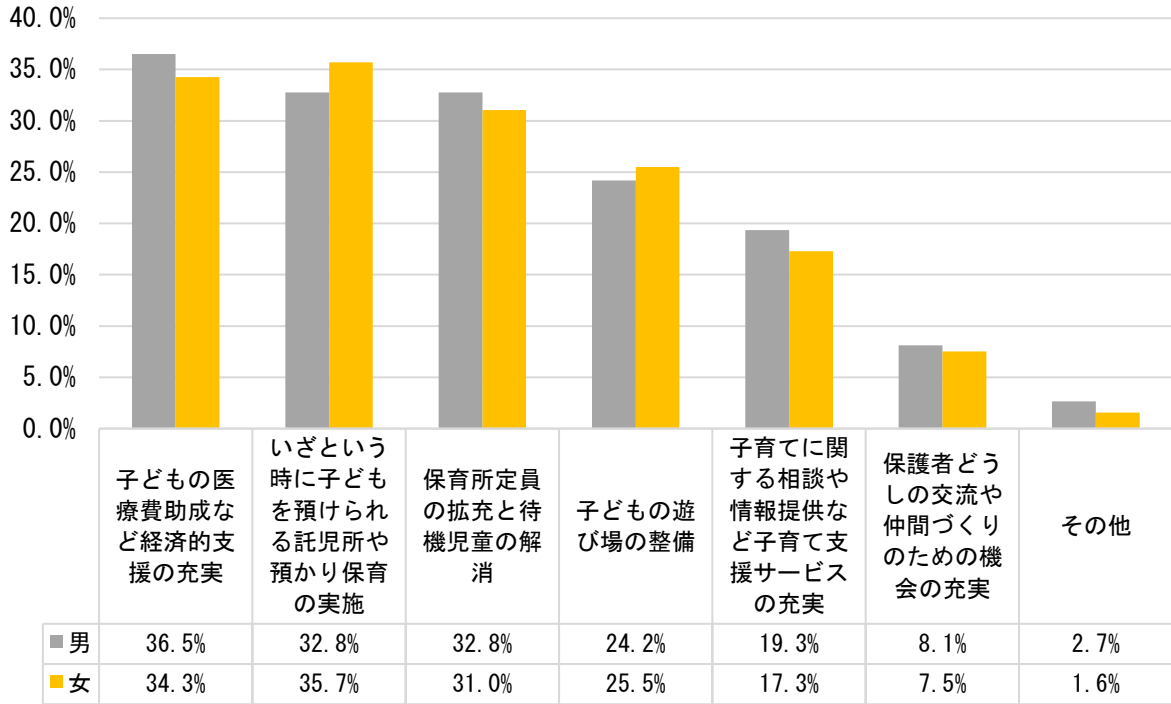
子育て環境を充実させるためにはどのようなことに力を入れるべきかという設問に対して、「子どもの医療費助成など経済的支援の充実（以下、「経済的支援」）」が34.5%と最も多く、次いで、「いざという時に子どもを預けられる託児所や預かり保育の実施（以下、「託児所や預かり保育」）」（34.2%）、「保育所定員の拡充と待機児童の解消（以下、「保育所拡充」）」（31.3%）、「子どもの遊び場の整備（以下、「遊び場整備」）」（24.6%）となっています。

男女別に最も選択肢の多い項目をみると、男性が「経済的支援」（36.5%）、女性が「託児所や預かり保育」（35.7%）となっています。

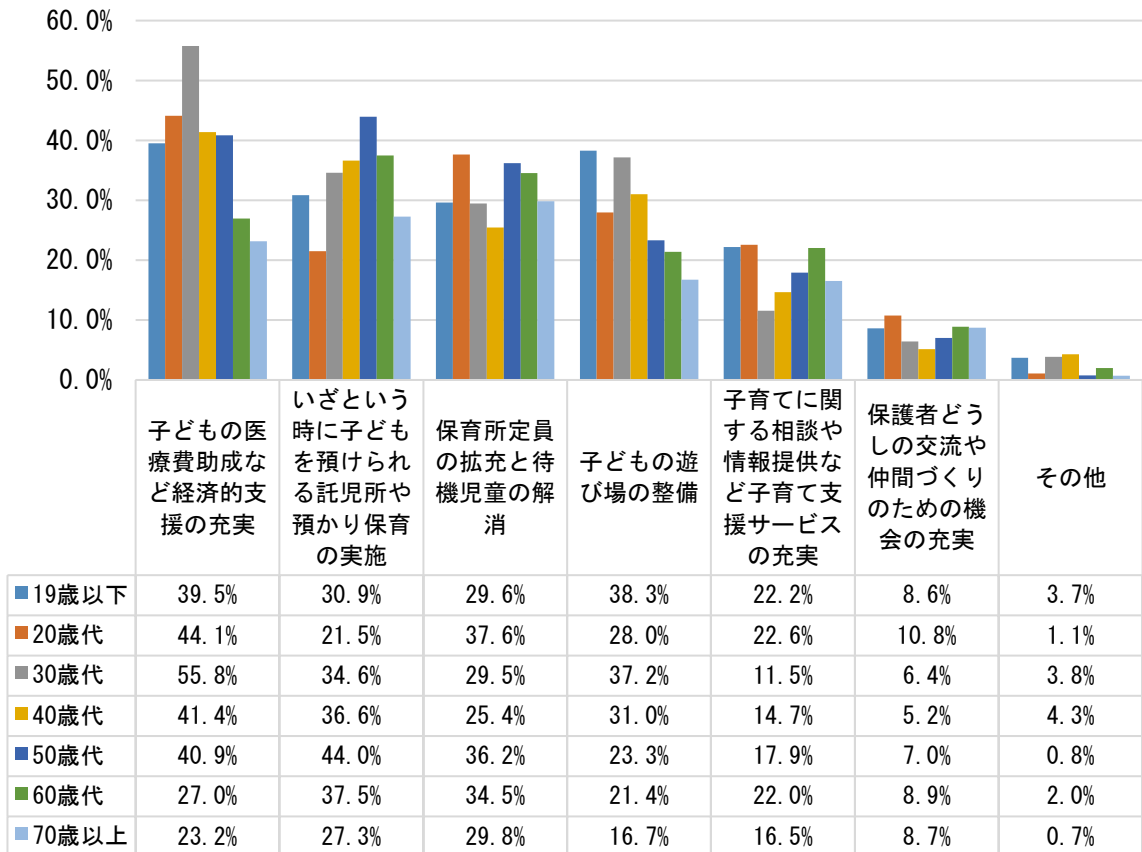
年齢別に最も選択肢の多い項目をみると、19歳以下、20歳代、30歳代、40歳代が「経済的支援」（39.5%、44.1%、55.8%）、50歳代、60歳代、が「託児所や預かり保育」（44.0%、37.5%）、70歳以上が「保育所拡充」（29.8%）となっています。



子育て環境の充実のために力を入れるべきこと（男女別）



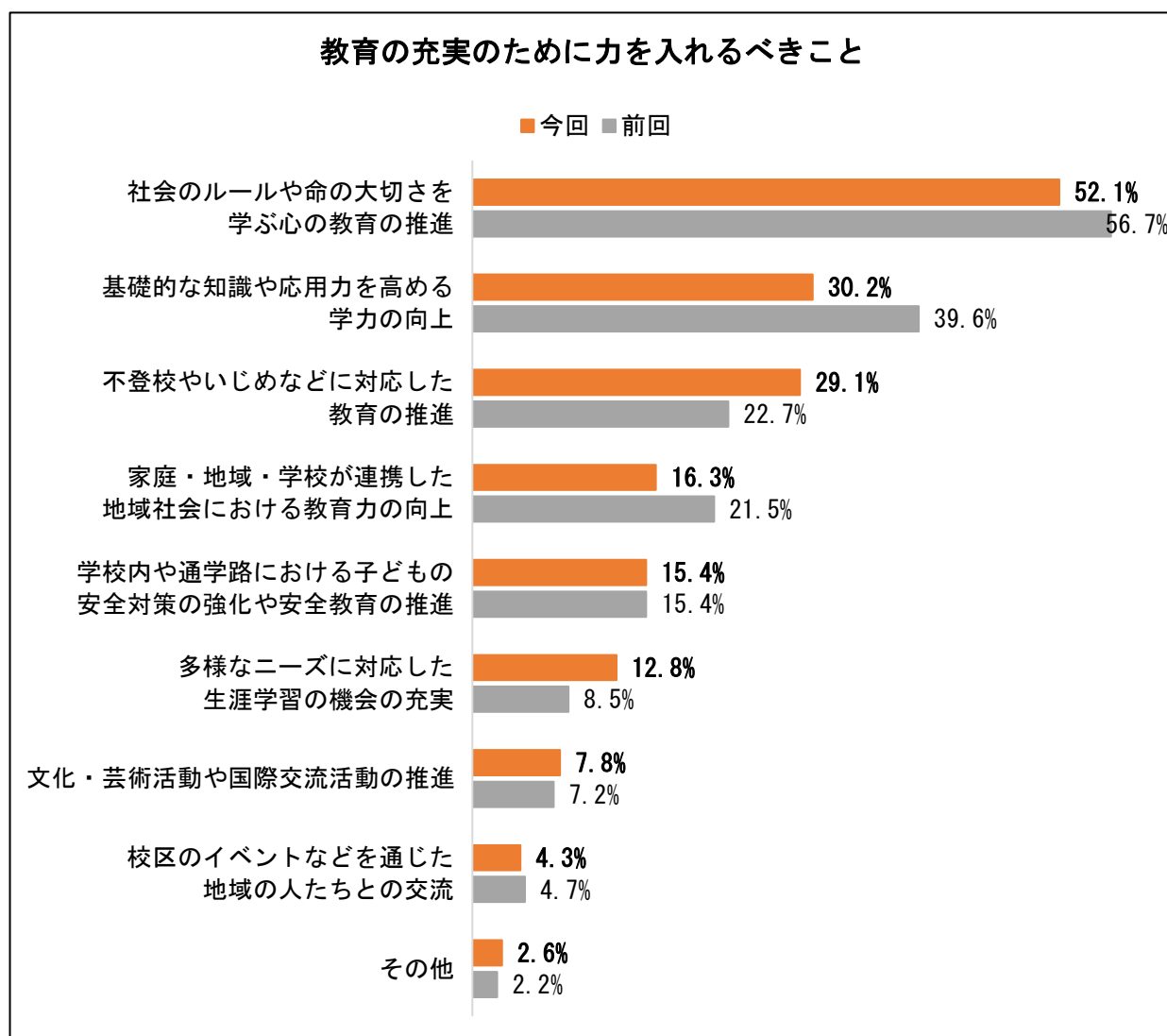
子育て環境の充実のために力を入れるべきこと（年齢別）



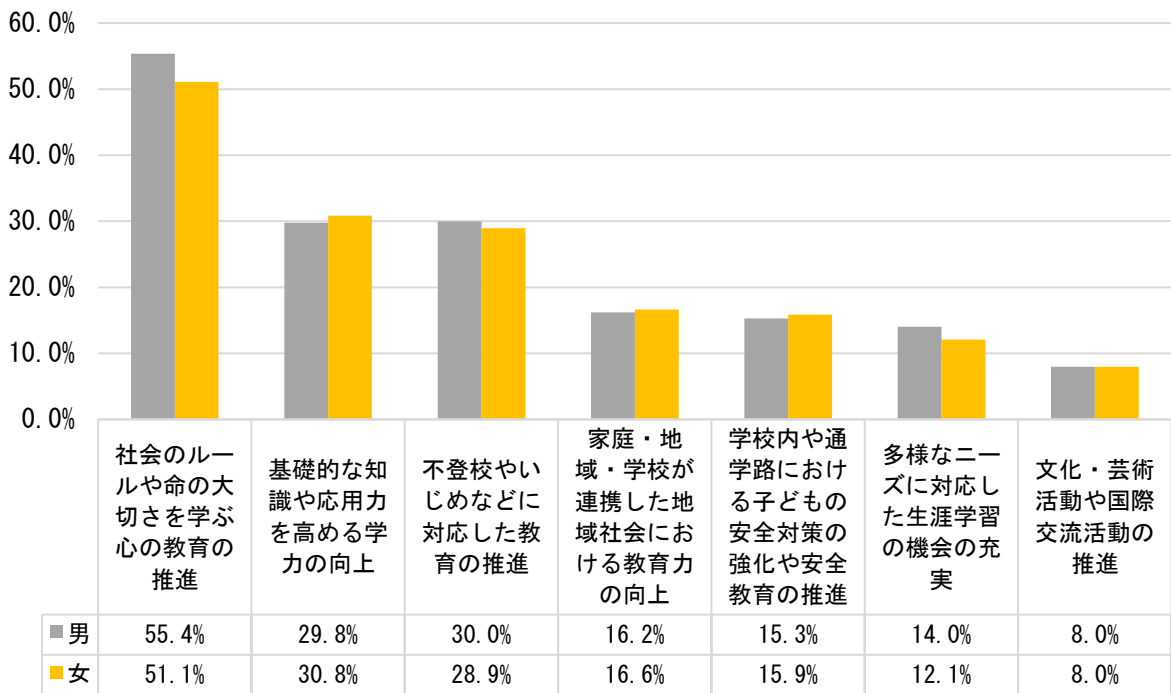
2-11 教育の充実のために力を入れるべきこと（2項目まで選択）

教育を充実させるためにはどのようなことに力を入れるべきかという設問に対して、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心の教育の推進」が52.1%と最も多く、次いで、「基礎的な知識や応用力を高める学力の向上」(30.2%)、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」(29.1%)、「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力の向上」(16.3%)となっています。

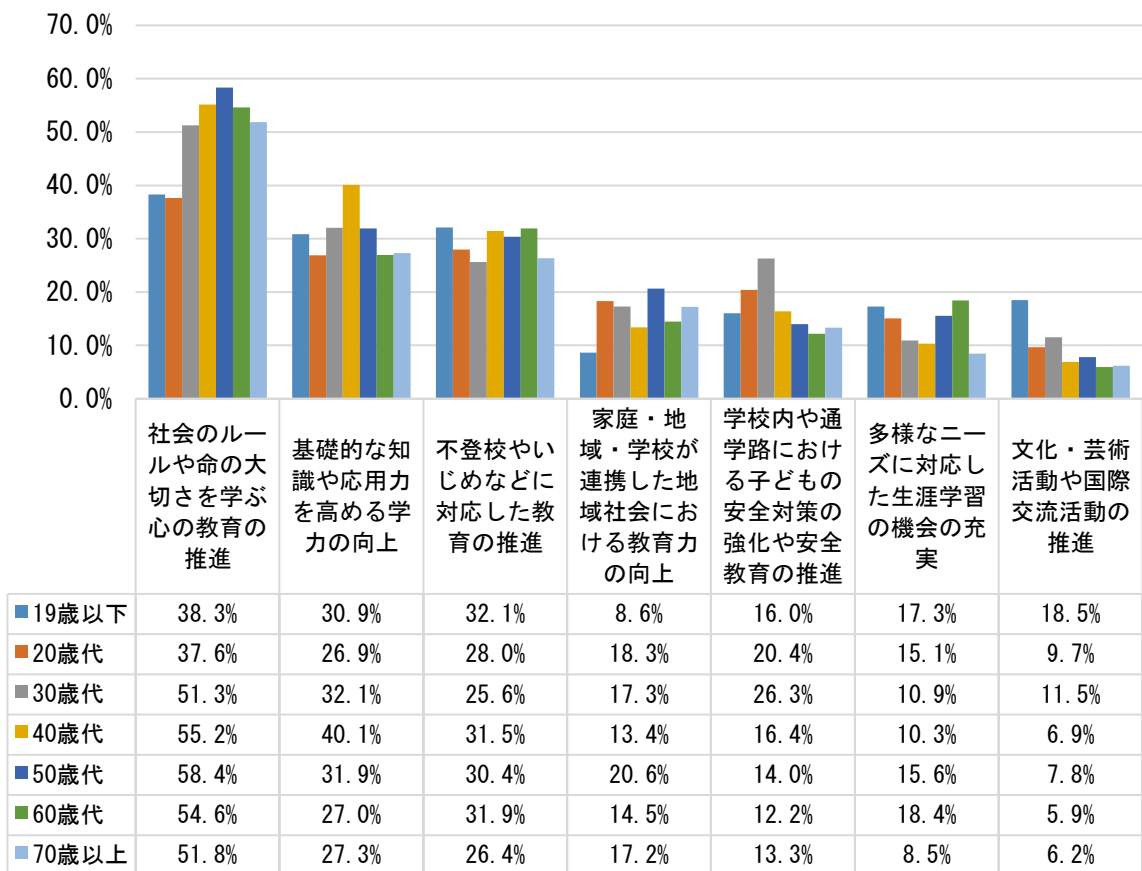
男女別、年齢別にみても、同様の傾向を示しており、性別、年齢に関係なくほぼ一致した意見となっています。



教育の充実のために力を入れるべきこと（男女別）



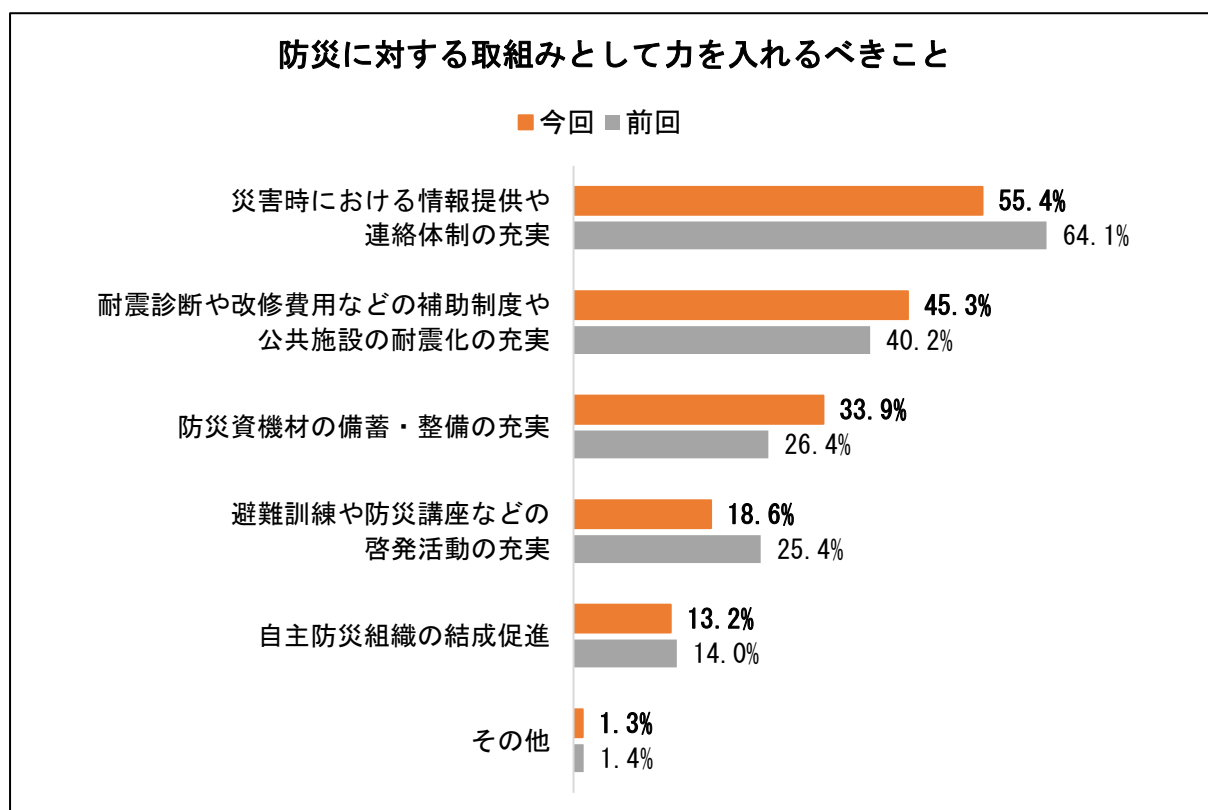
教育の充実のために力を入れるべきこと（年齢別）



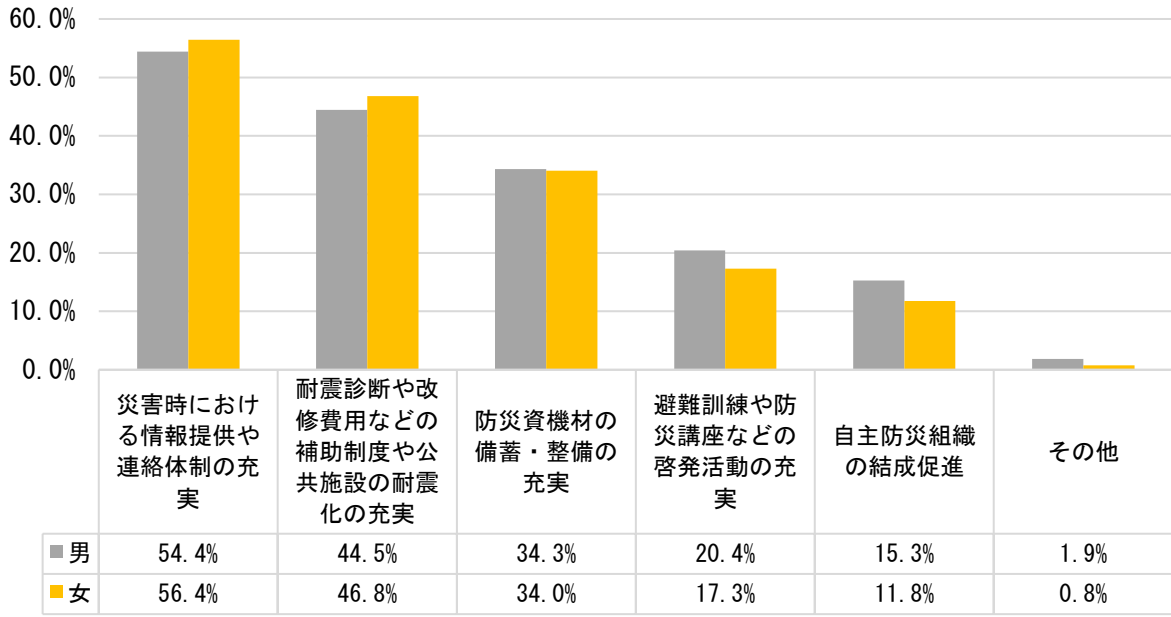
2-12 防災に対する取組みとして力を入れるべきこと（2項目まで選択）

防災に対する取組みとしてどのようなことに力を入れるべきかという設問に対して、「災害時における情報提供や連絡体制の充実」が（55.4）%と最も多く、次いで、「耐震診断や改修費用などの補助制度や公共施設の耐震化の充実」（45.3%）と続き、前回と同様の結果となっています。

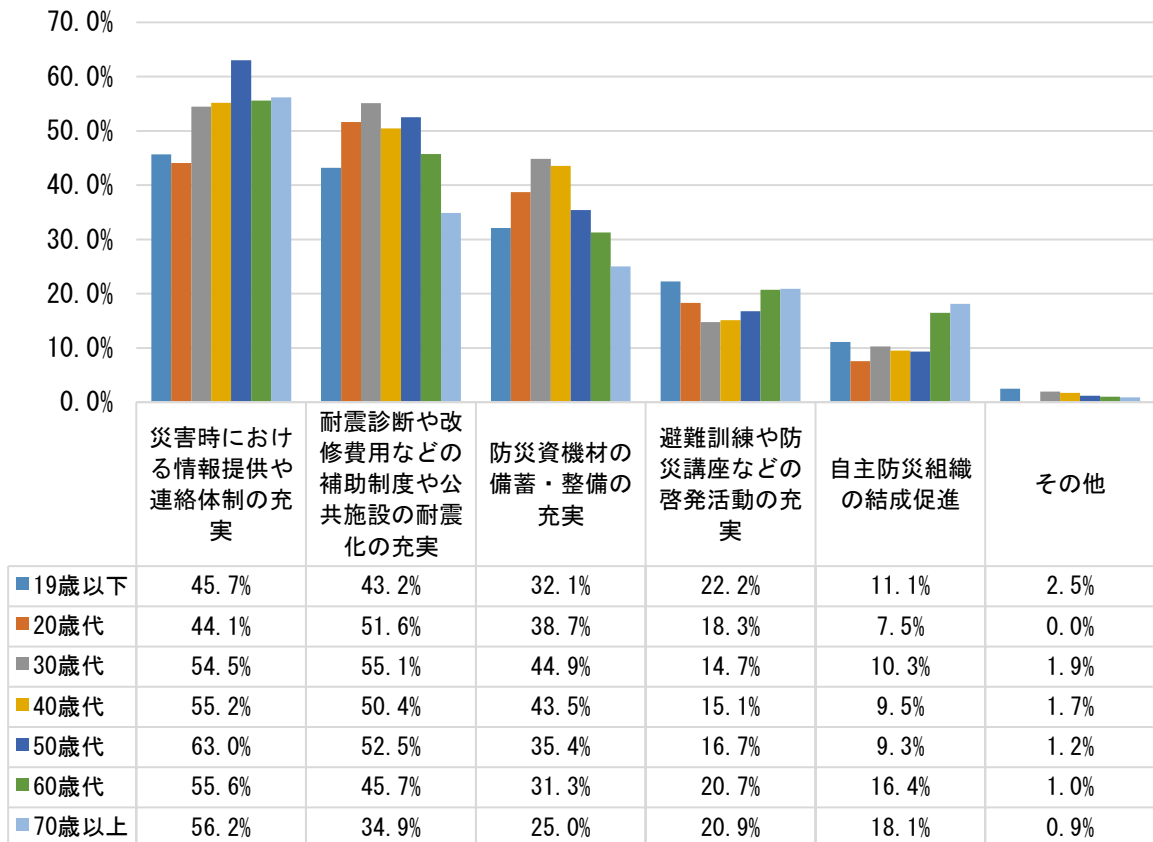
男女別、年齢別にみても、同様の傾向を示しており、性別、年齢に関係なくほぼ一致した意見となっています。



防災の取組みとして力を入れるべきこと（男女別）



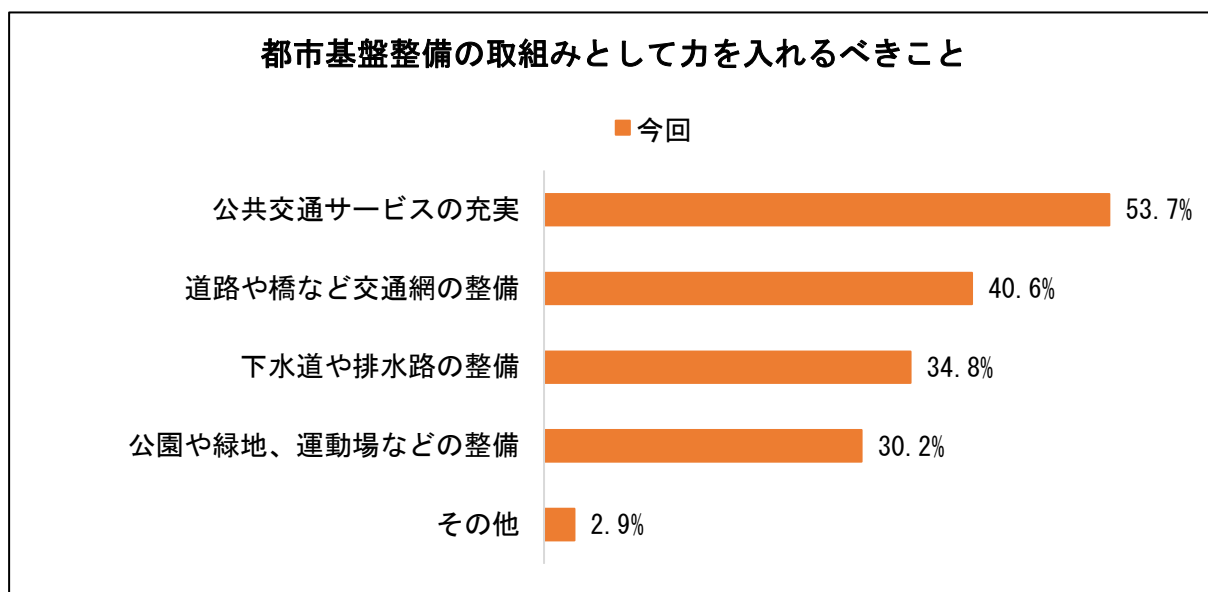
防災の取組みとして力を入れるべきこと（年齢別）



2-13 都市基盤整備の取組みとして力を入れるべきこと（2項目まで選択）

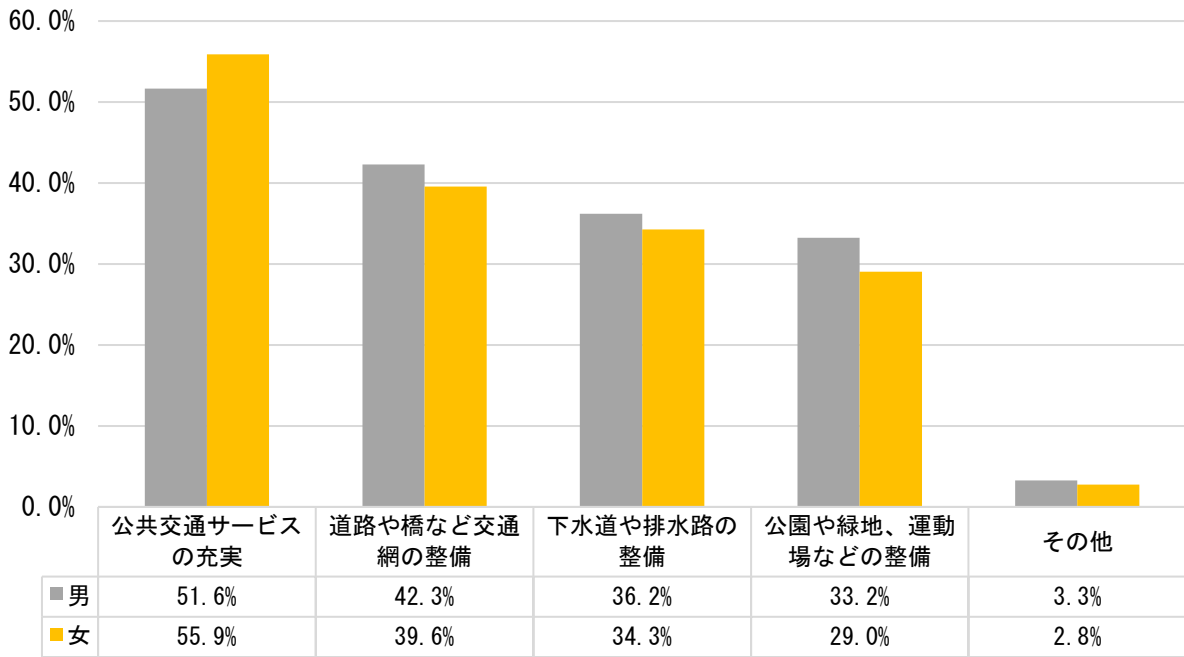
生活を充実させる都市基盤整備の取組としてどのようなことに力を入れるべきかという設問に対して、「公共交通サービスの充実」が（53.7%）と最も多く、次いで、「道路や橋などの交通網の整備」（40.6%）、「下水道や排水路の整備」（34.8%）、「公園や緑地、運動場などの整備」（30.2%）となっています。

男女別でも同様の傾向を示しておりますが、年齢別にみると、30歳代が「公園や緑地、運動場などの整備」が、70歳代が「下水道や排水路の整備」が多くなっています。

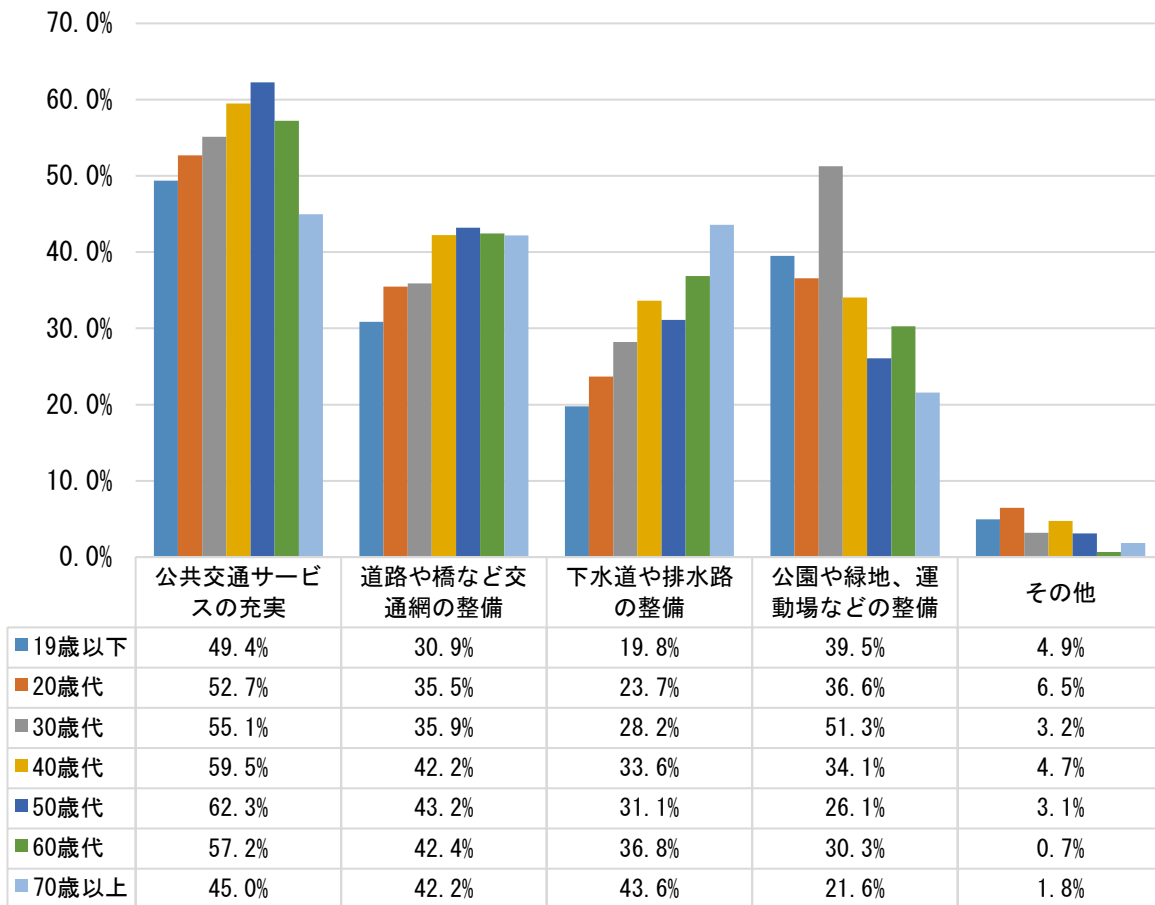


※「都市基盤整備の取組みとして力を入れるべきこと」の設問は、前回のアンケートで実施しなかったため、今回の結果のみとなっています。

都市基盤整備の取組みとして力を入れるべきこと（男女別）



都市基盤整備の取組みとして力を入れるべきこと（年齢別）



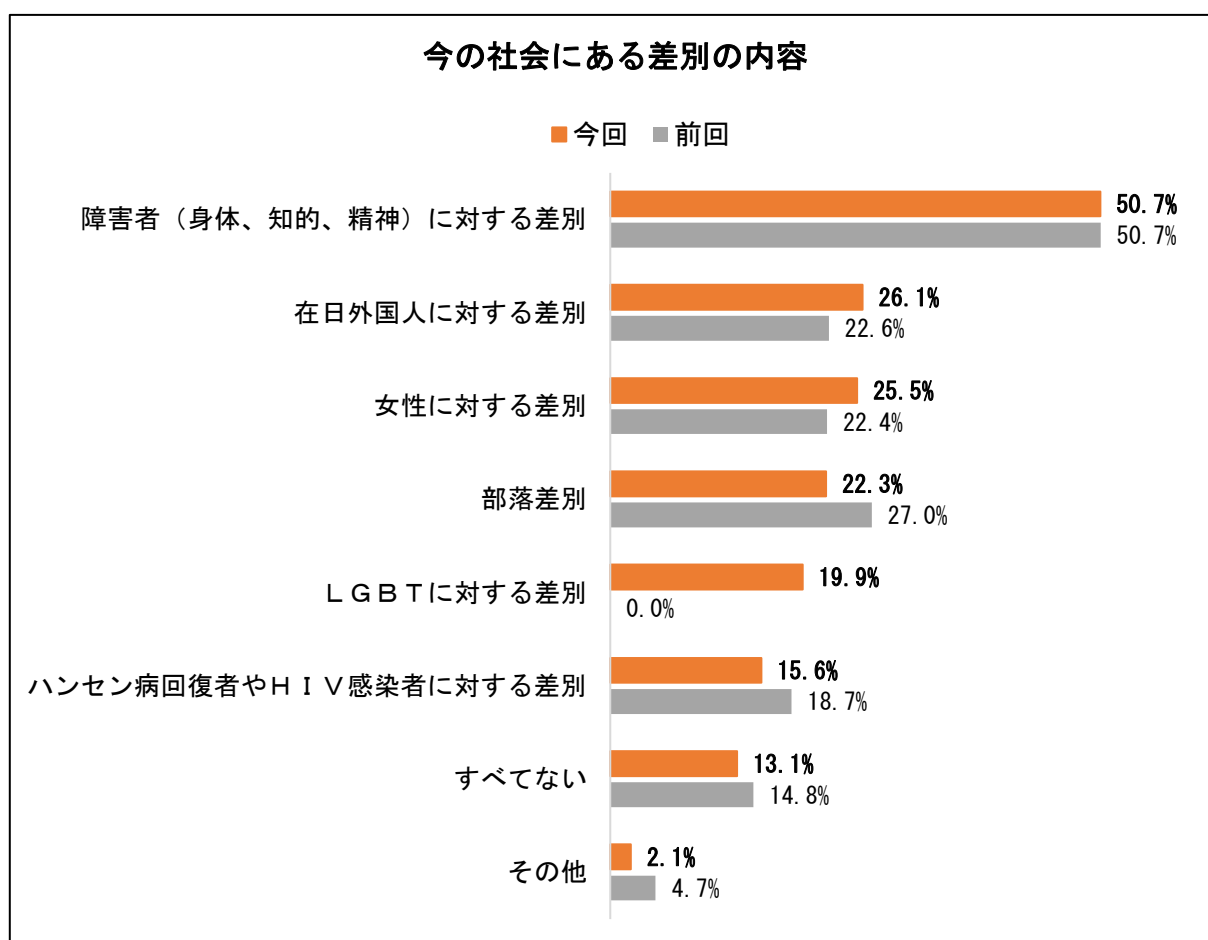
2-14 差別の実態や認識について

(1) 今の社会にある差別の内容（2項目まで選択）

今の社会にどのような差別や忌避意識があるかという設問に対して、「障害者（身体、知的、精神）に対する差別」が50.7%と最も多く、次いで、「在日外国人に対する差別」（26.1%）、「女性に対する差別」（25.5%）、「部落差別」（22.3%）、となっています。

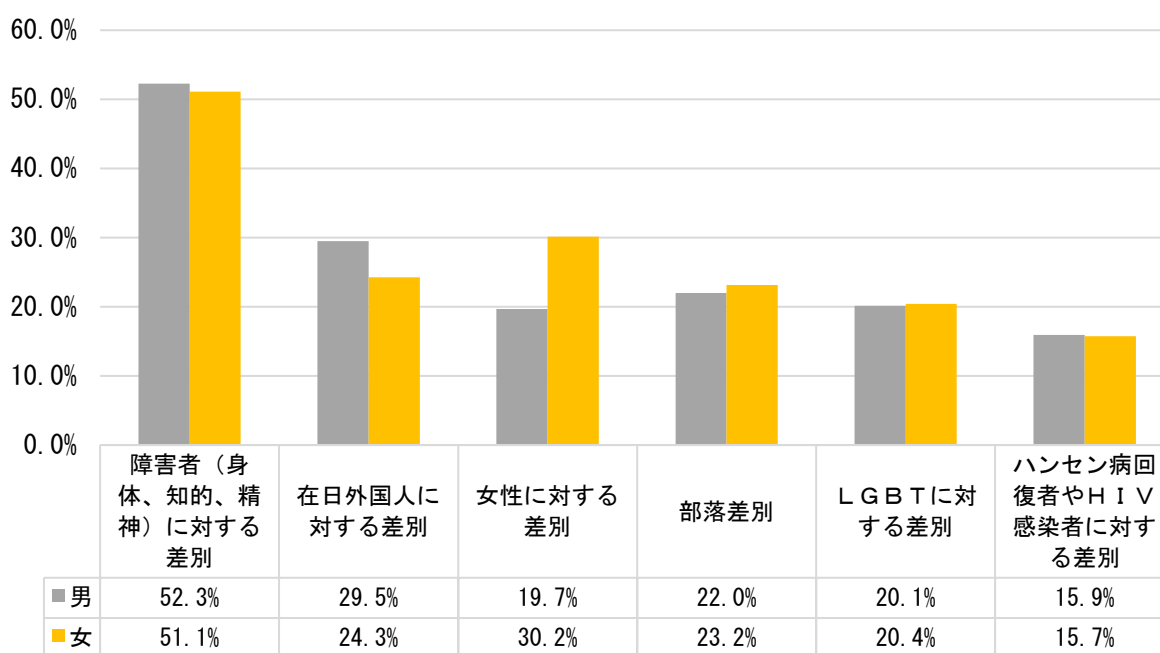
男女別でみると、「女性に対する差別」が男性より女性の方が多いたことが特徴的です。

年齢別でみると、19歳以下は「女性に対する差別」が低い値を示しており、20歳代以下の若い世代で「LGBTに対する差別」が多くなっています。

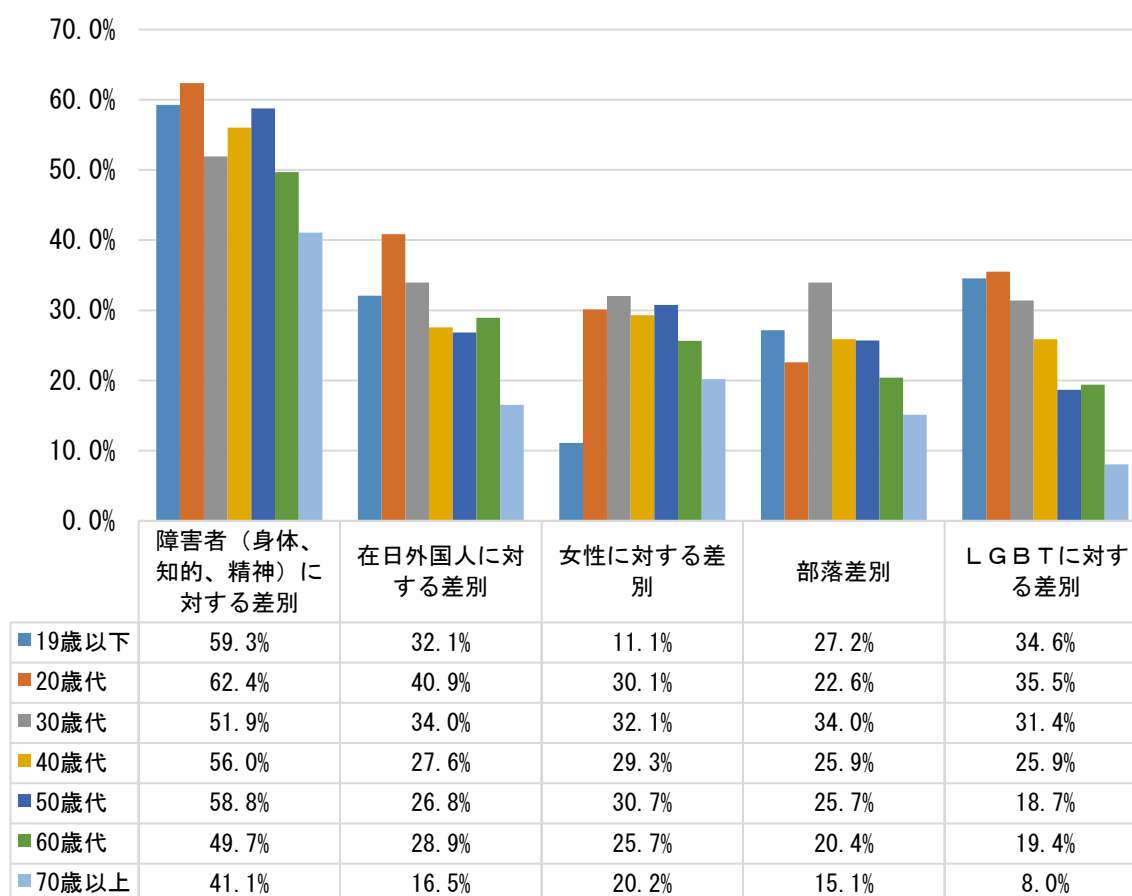


※「LGBTに対する差別」の選択肢は、前回アンケートにはなかったため、前回のデータはありません。

今の社会にある差別の内容（男女別）



今の社会にある差別の内容（年齢別）

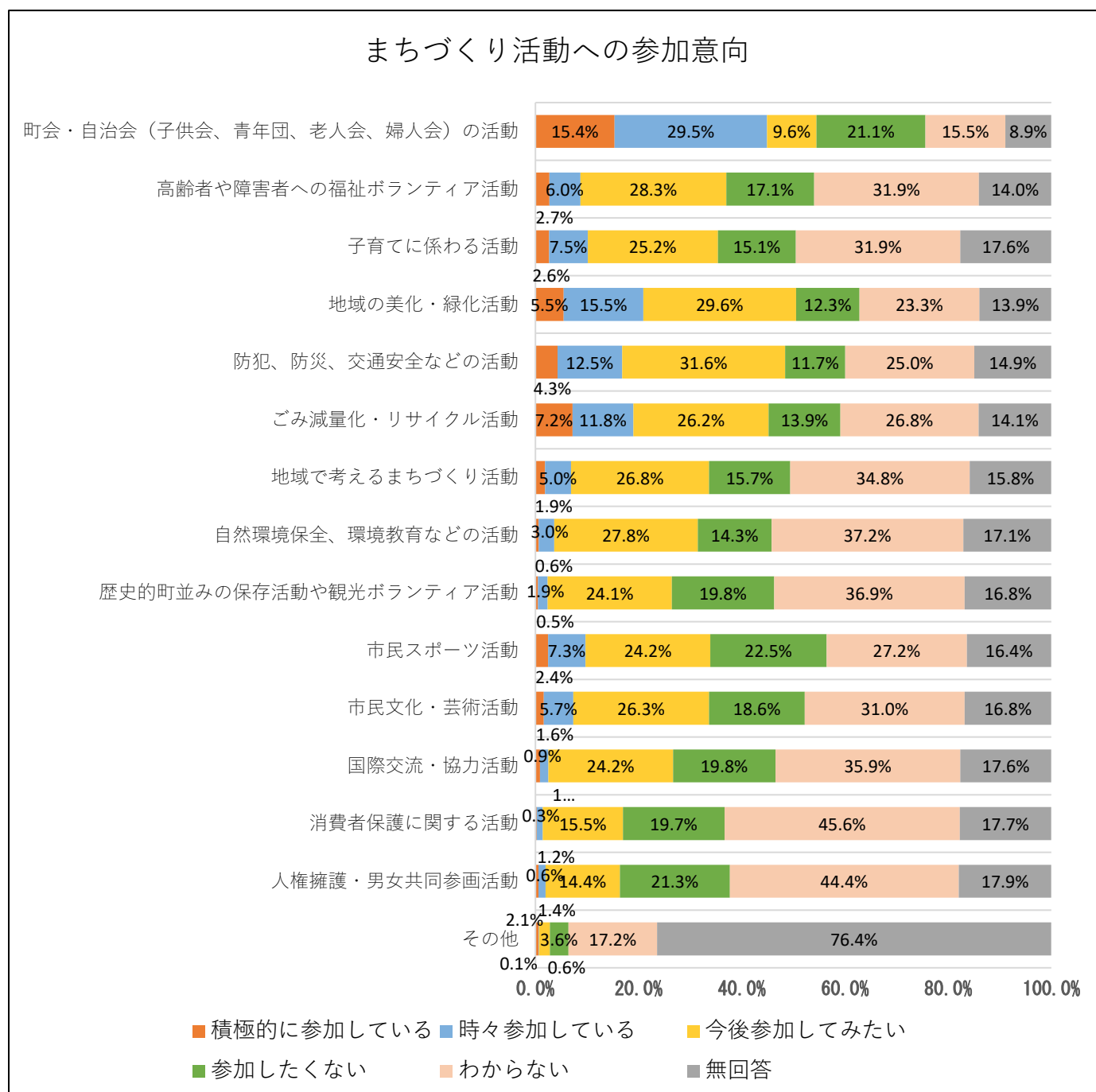


【まちづくりへの参加について】

2-15 まちづくり活動への参加意向

様々なまちづくり活動に対して現在参加している、あるいは今後参加したいと思うかという設問に対して、「現在積極的に参加している」または「時々参加している」のは、「町会・自治会活動」が44.9%と最も高く、次いで、「地域の美化活動」(21%)、「ゴミ減量化・リサイクル活動」(19%)、「防犯、防災、交通安全などの活動」(16.8%)となっています。

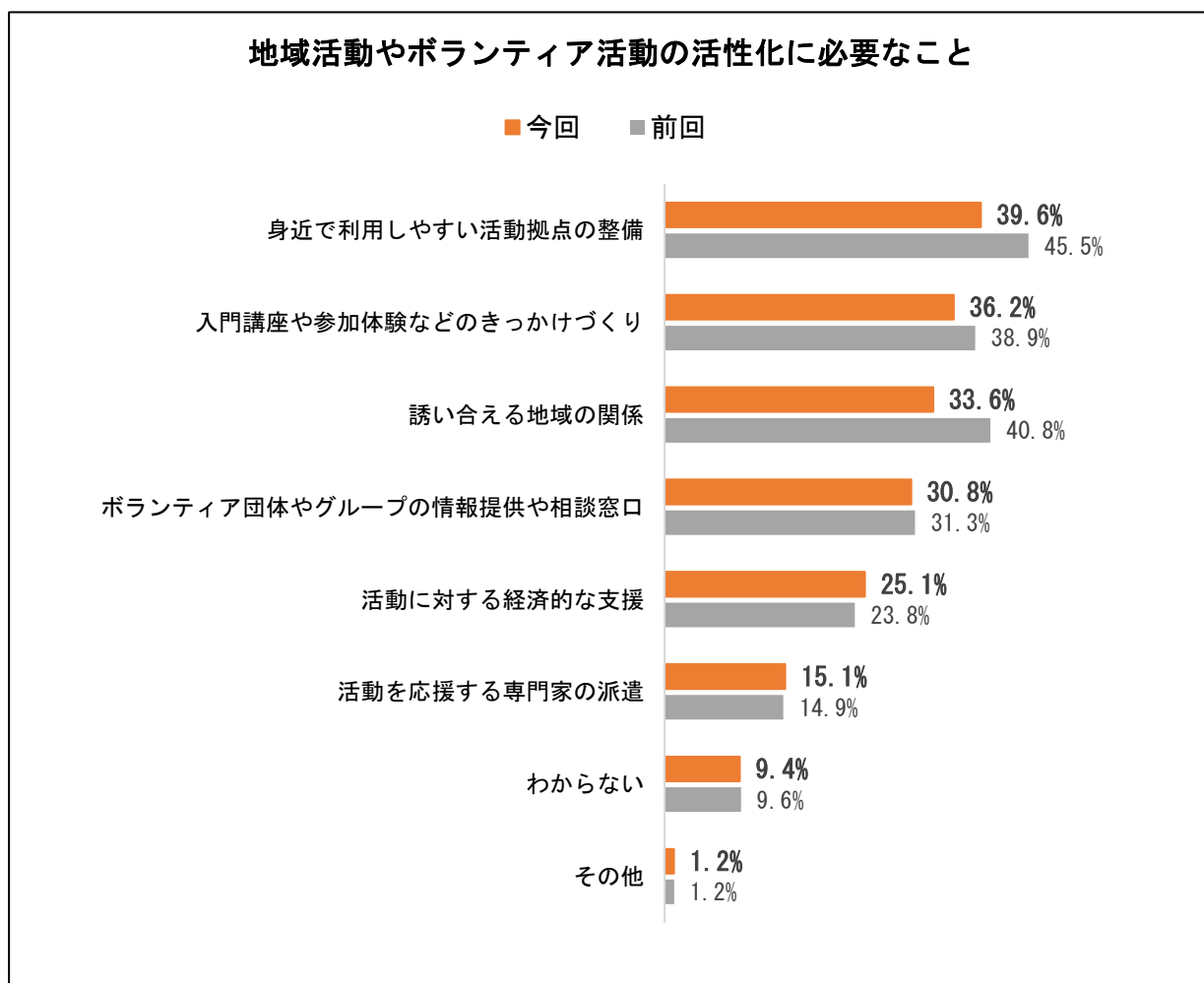
今後参加してみたい活動としては、例示したほとんどの活動に対して20~30%の方が参加してみたいと考えています。



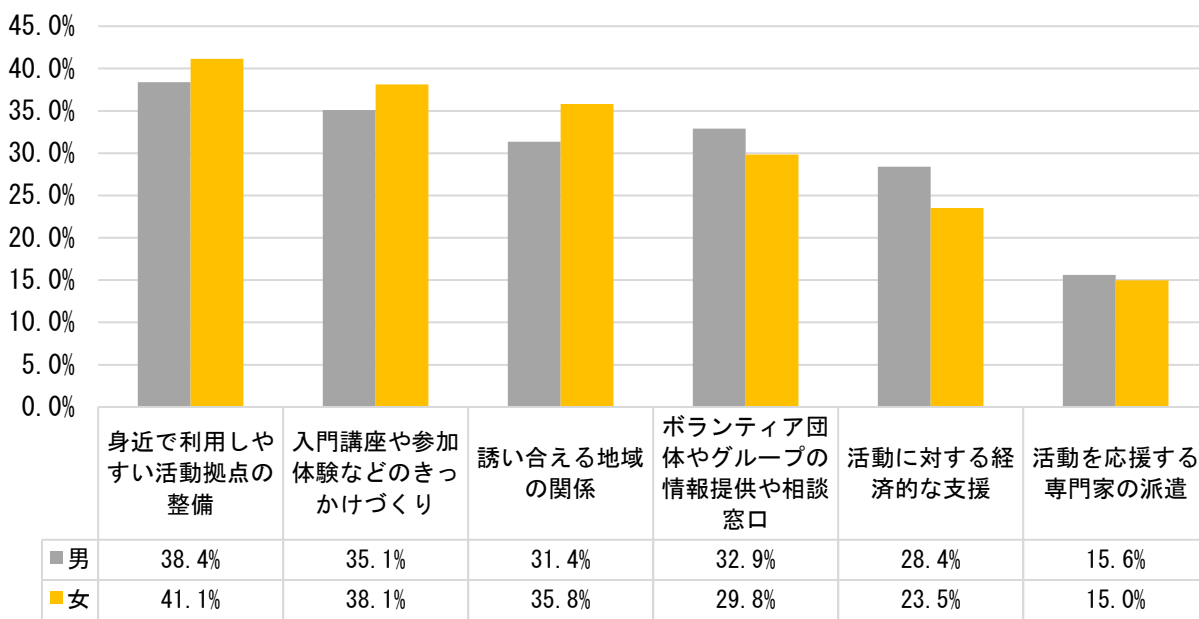
2-16 地域活動やボランティア活動の活性化に必要なこと（3項目まで選択）

地域活動やボランティア活動の活性化のためにどのようなことが必要だと思いますかという設問に対して、「身近で利用しやすい活動拠点の整備」が39.6%と最も多く、次いで、「入門講座や参加体験などのきっかけづくり」（36.2%）、「誘い合える地域の関係」（33.6%）、「ボランティア団体やグループの情報提供や相談窓口」（30.8%）となっています。

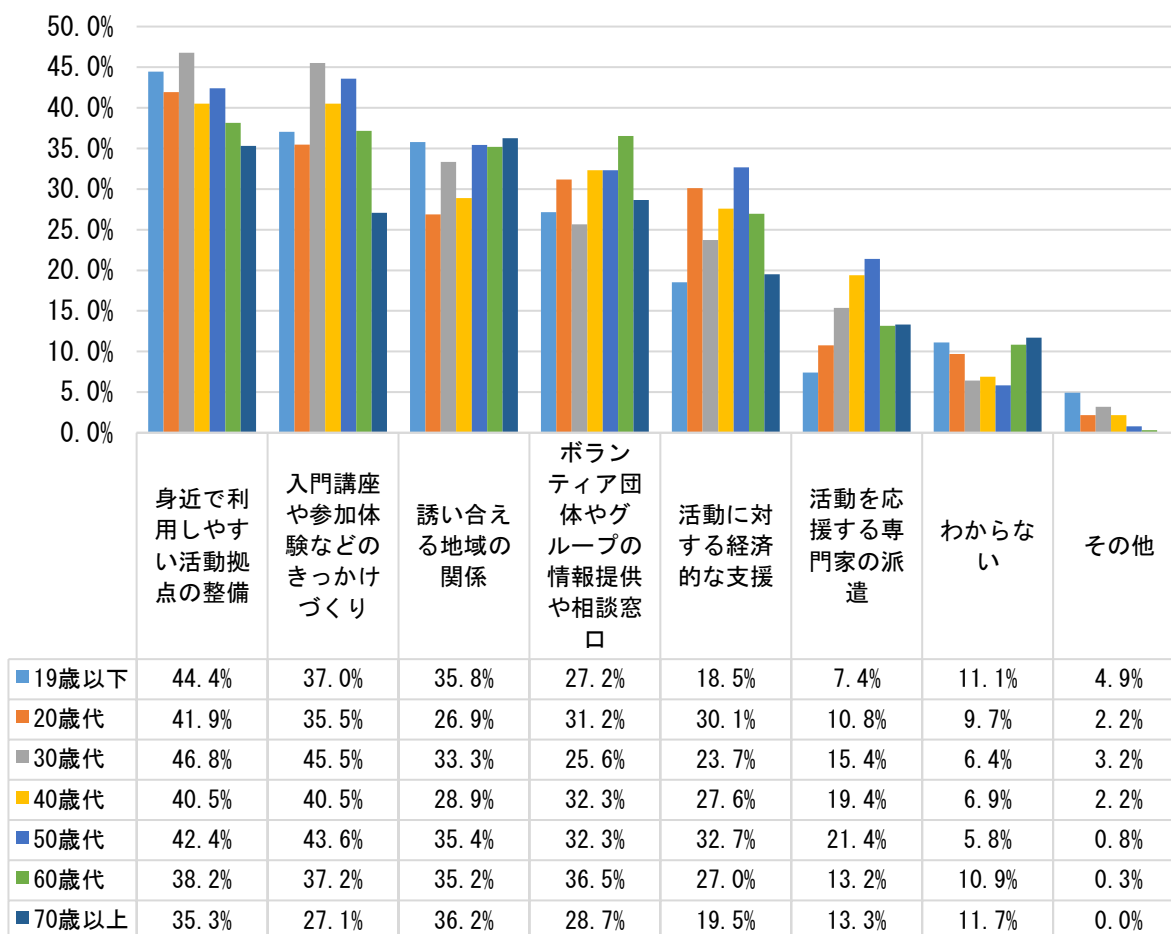
男女別、年齢別、居住年数別にみても、ほぼ同様の傾向を示しています。



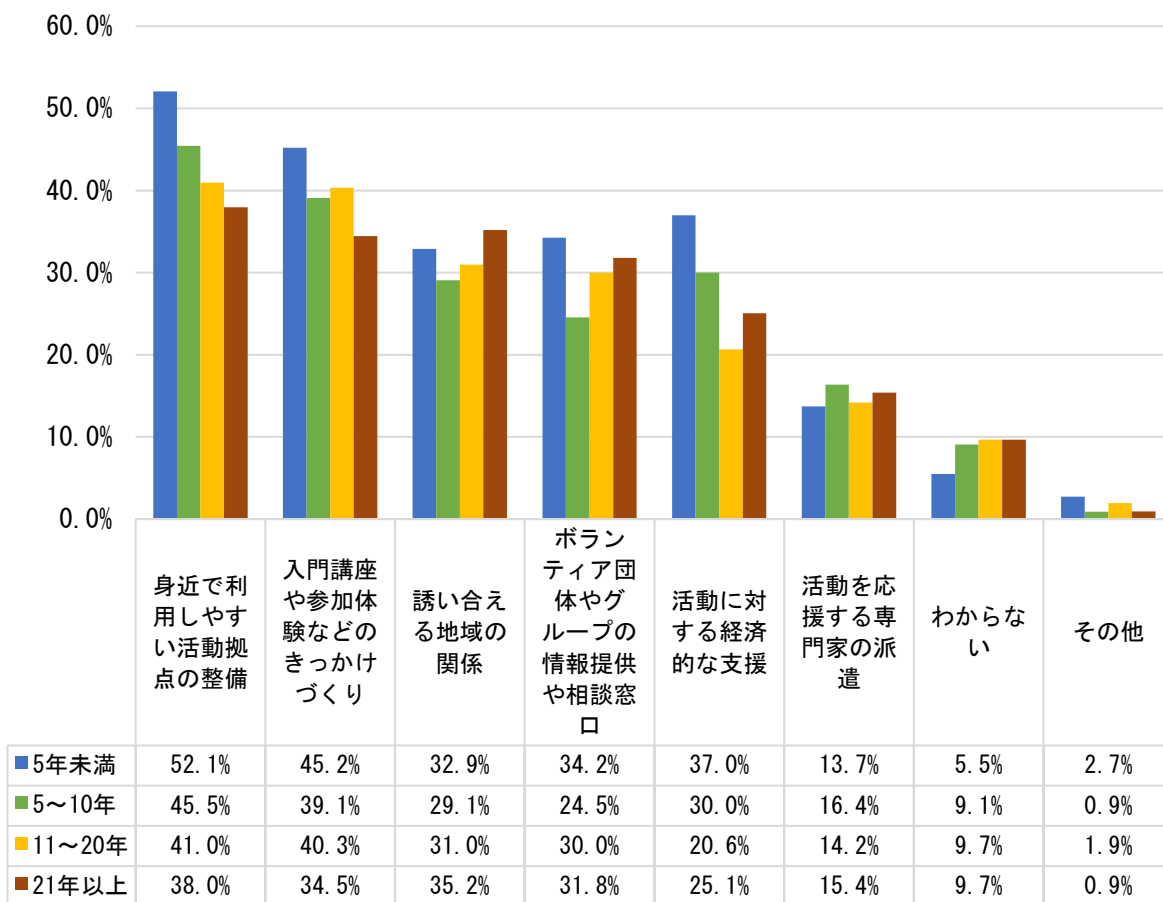
地域活動やボランティア活動の活性化に必要なこと（男女別）



地域活動やボランティア活動の活性化に必要なこと（年齢別）



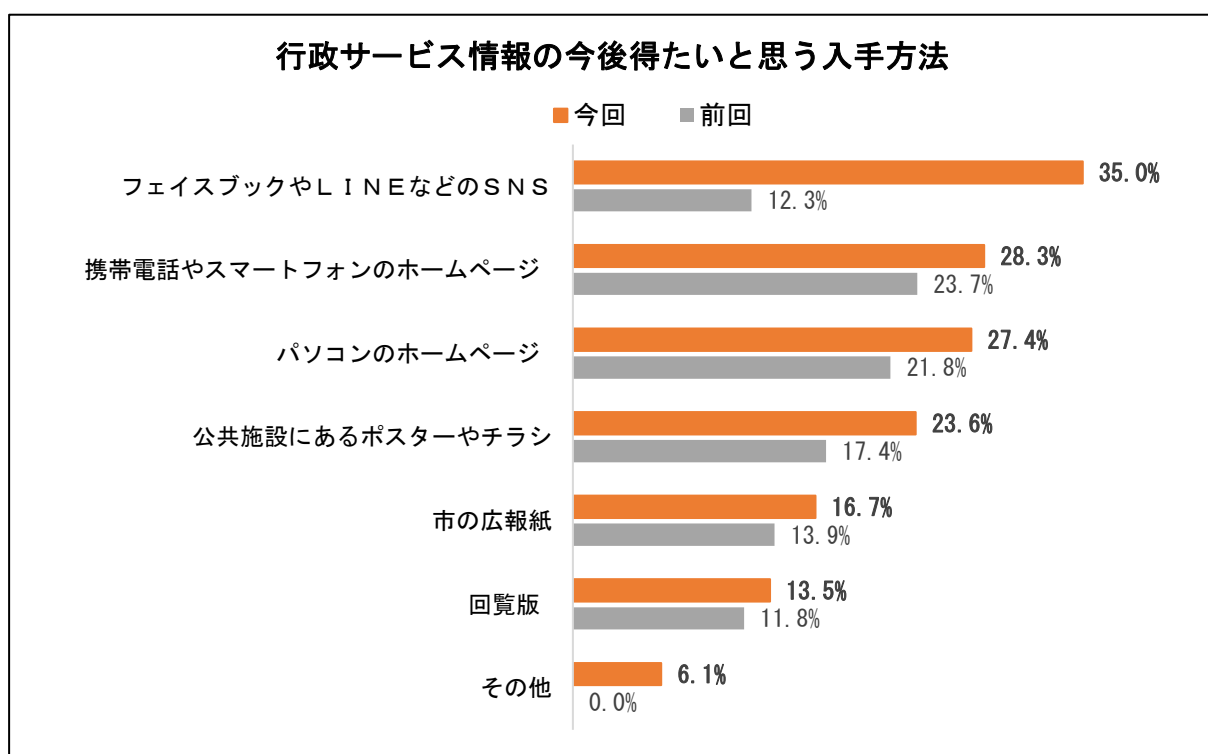
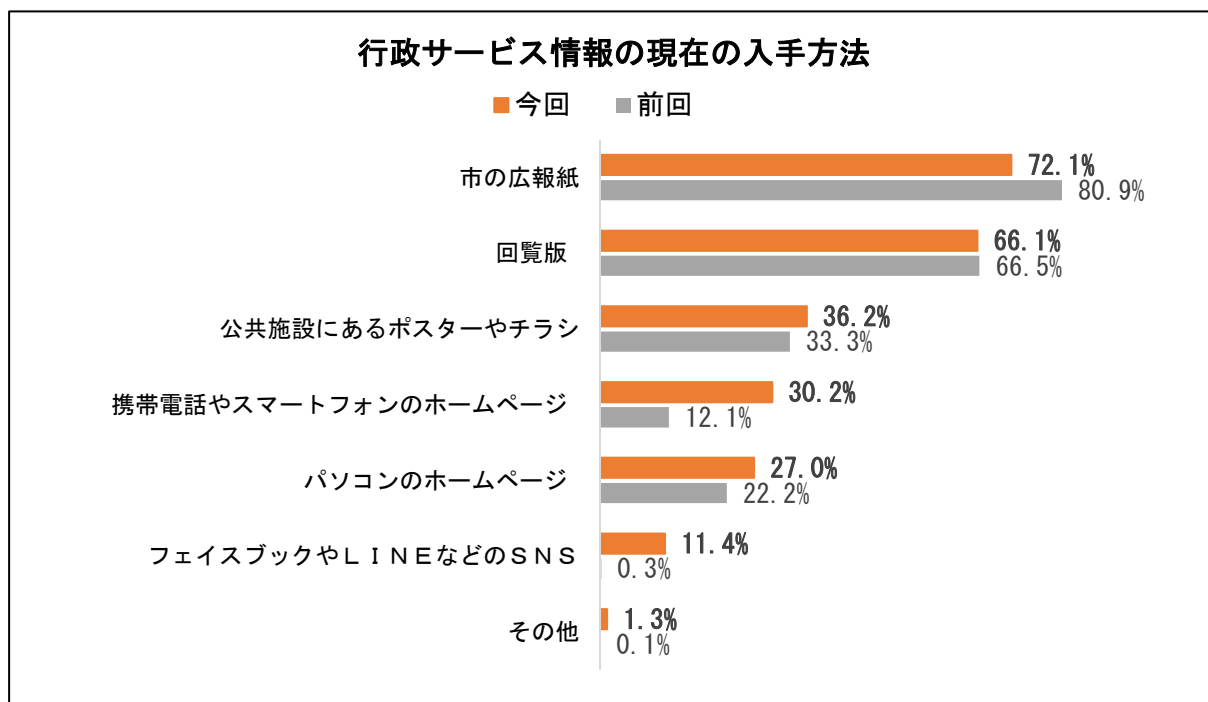
地域活動やボランティア活動の活性化に必要なこと（居住年数別）



2-17 行政サービス情報の入手方法（該当項目すべて選択）

行政サービス情報をどのような方法で得ていますかという設問に対して、「市の広報紙」が72.1%と最も多く、次いで、「回覧版」（66.1%）となっています。

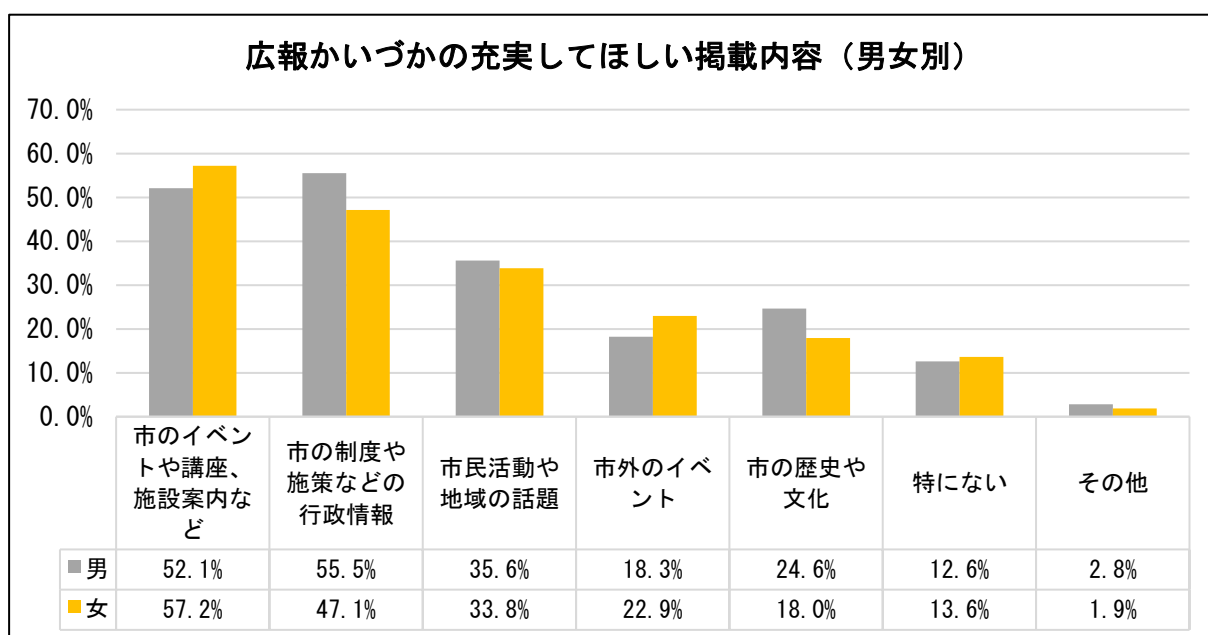
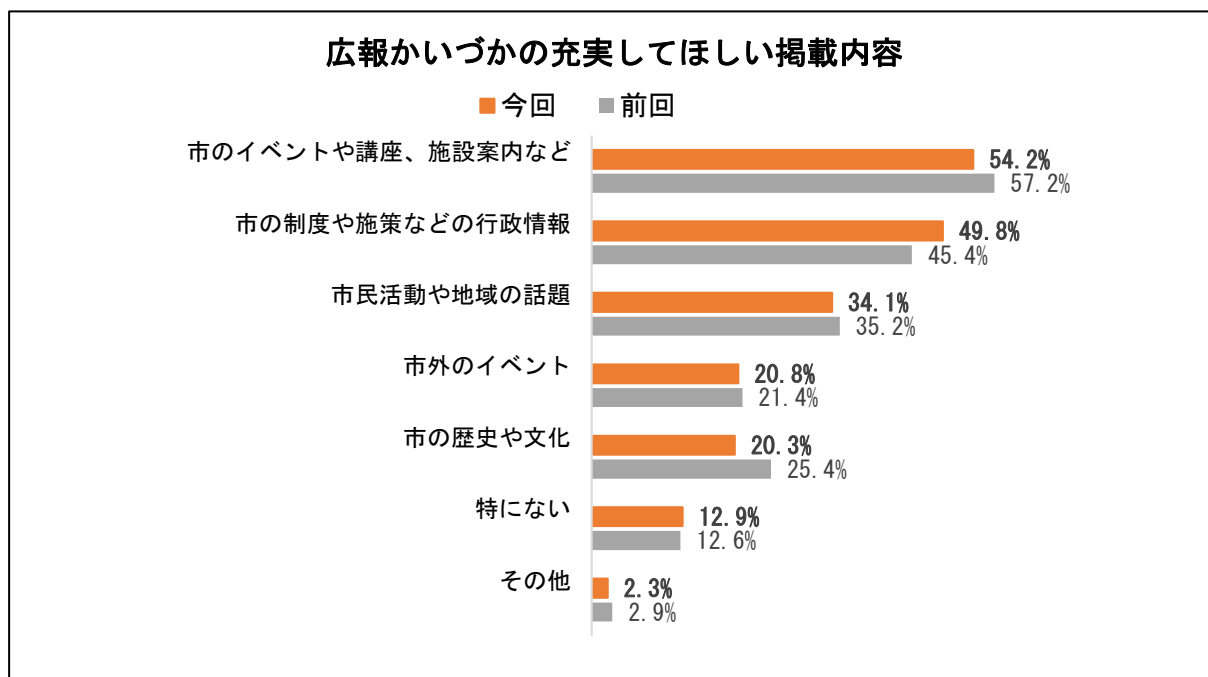
今後得たいと思う方法としては、「フェイスブックやLINEなどのSNS」が前回アンケートから大幅に伸びて35.0%と最も多く、次いで「携帯電話やスマートフォンのホームページ」（28.3%）、「パソコンのホームページ」（27.4%）となっています。



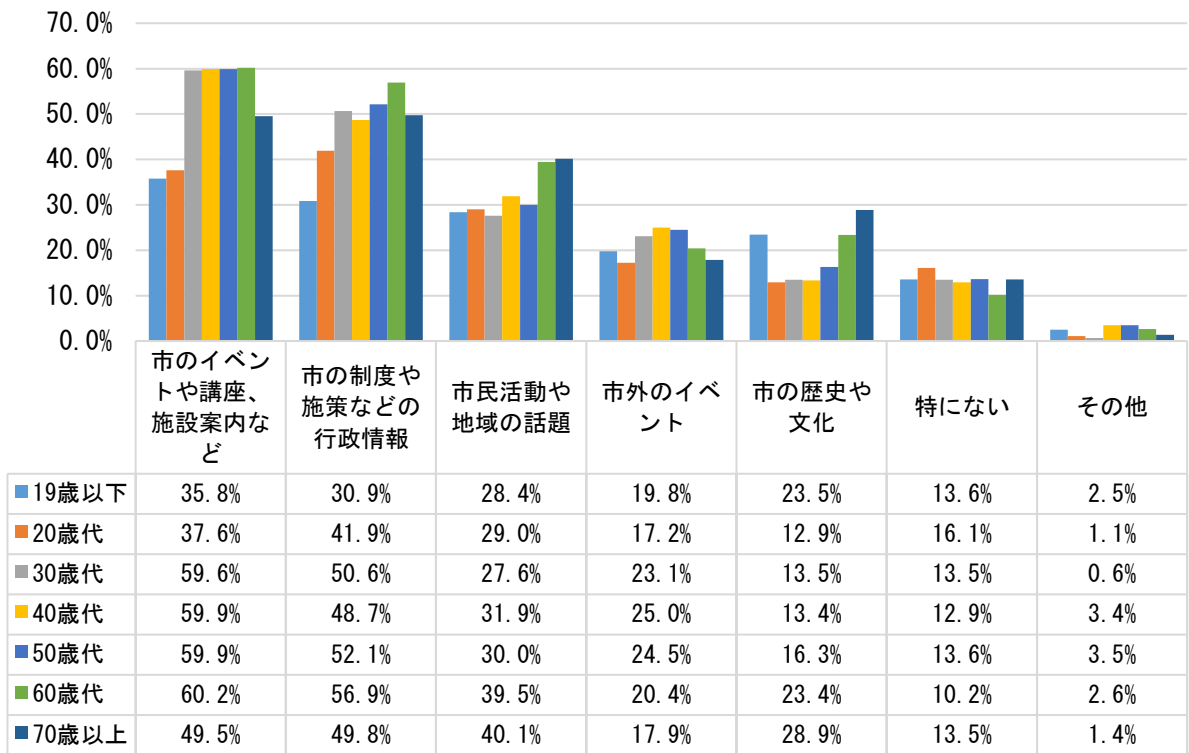
2-18 広報かいつかで充実すべき内容（該当項目すべて選択）

広報かいつかの掲載内容について充実して欲しいと思うものは何かという設問に対して、「市のイベントや講座、施設案内など」が54.2%と最も多く、次いで、「市の制度や施策などの行政情報」（49.8%）、「市民活動や地域の話題」（34.1%）となっています。

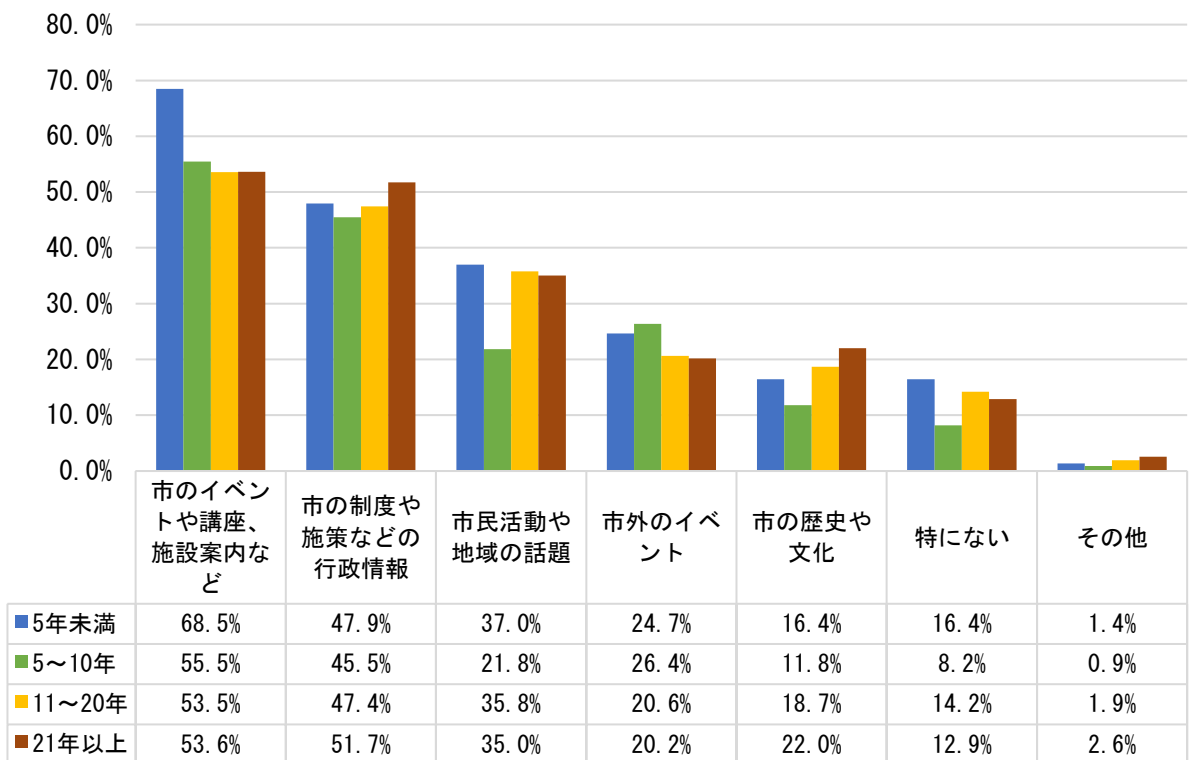
男女別、年齢別、居住年数別にみても、ほぼ同様の傾向を示しています。



広報かいつかの充実してほしい掲載内容（年齢別）



広報かいつかの充実してほしい掲載内容（居住年数別）



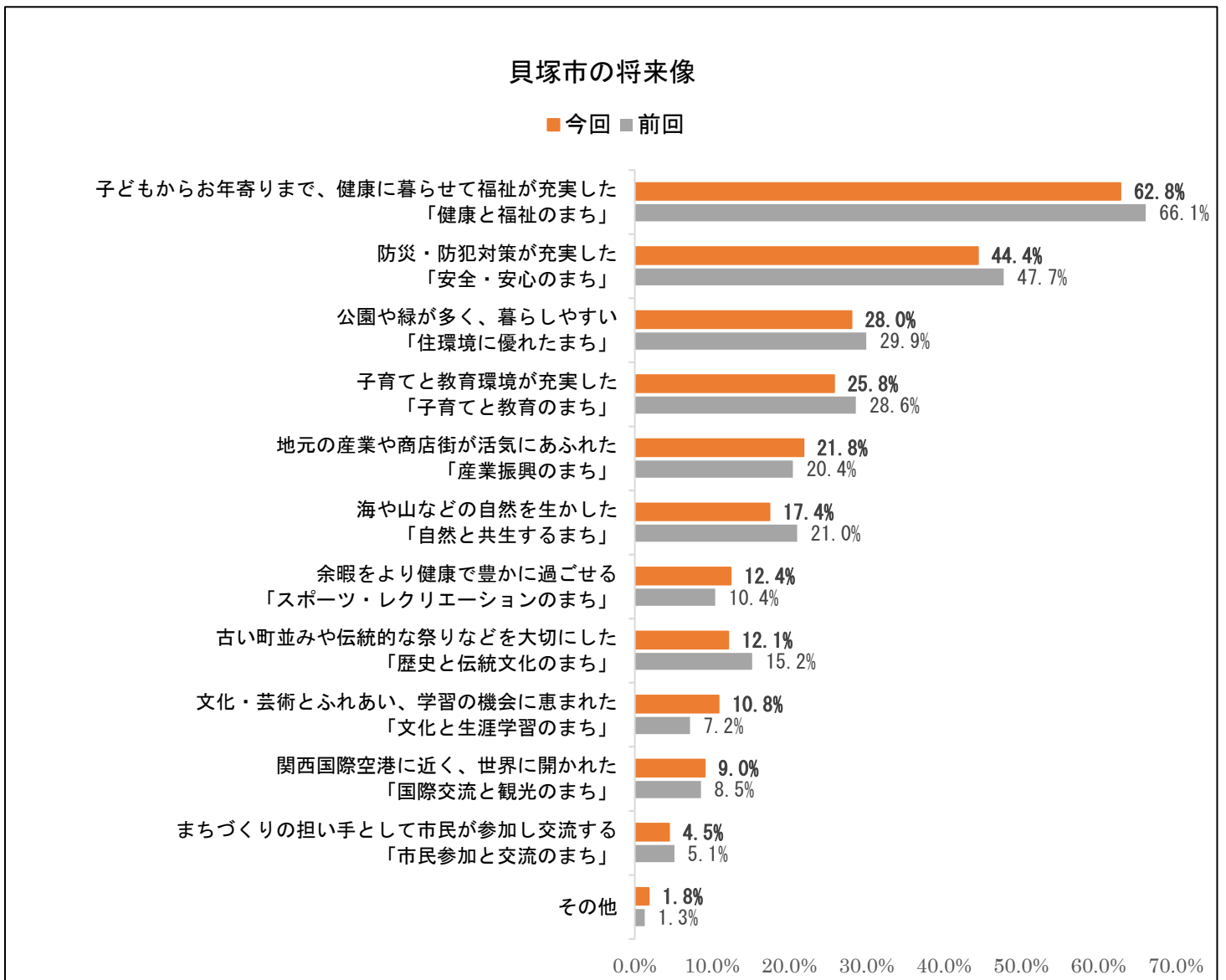
【貝塚市の将来像】

2-19 貝塚市の将来像（3項目まで選択）

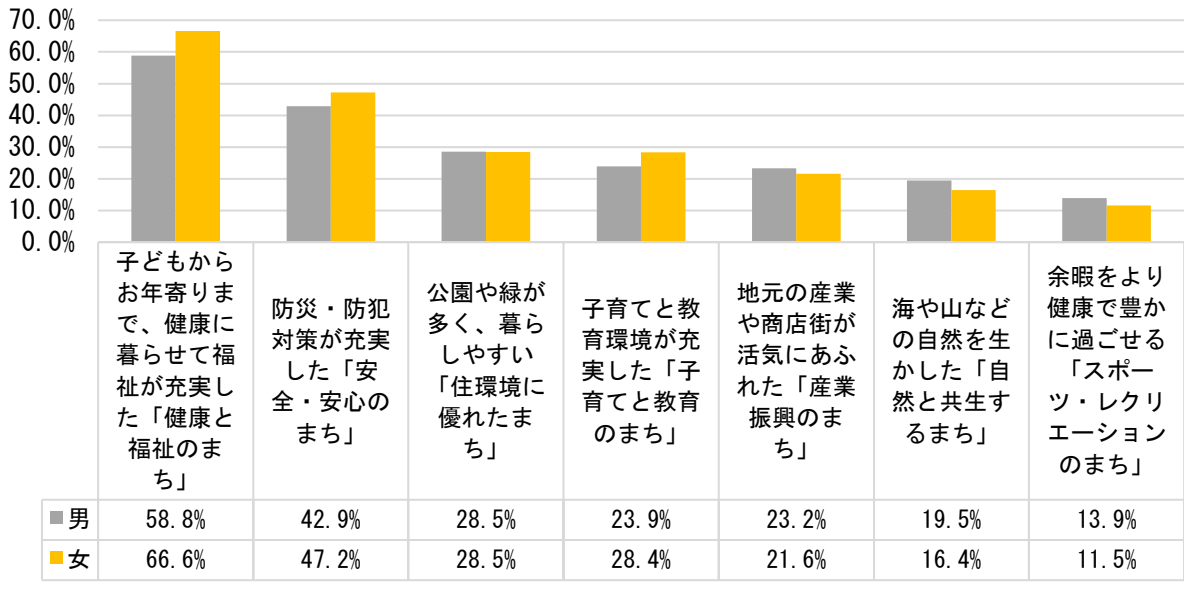
みんなで作るこれからの貝塚市をどのようなまちにしたいかという設問に対して、「健康と福祉のまち」が62.8%と最も多く、次いで、「安全・安心のまち」（44.4%）、「住環境に優れたまち」（28.0%）、「子育てと教育のまち」（25.8%）、「産業振興のまち」（21.8%）となっています。

男女別、にみても、同様の傾向を示しています。

年齢別には、20歳代、30歳以上で「子育てと教育のまち」（40.9%、56.4%）が多くなっているのが特徴的です。



貝塚市の将来像（男女別）



貝塚市の将来像（年代別）

